

kuraray 株式会社 クラレ

東京本社 〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 (大手センタービル)
大阪本社 〒530-8611 大阪市北区梅田1-12-39 (新阪急ビル)
代表 TEL: 03-6701-1000 FAX: 03-6701-1005

<http://www.kuraray.co.jp/>



クラレCSRレポート2008

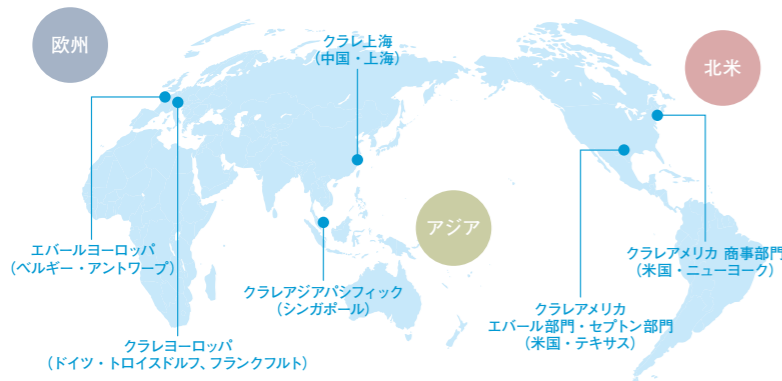
Corporate Social Responsibility Report

クラレ会社概要

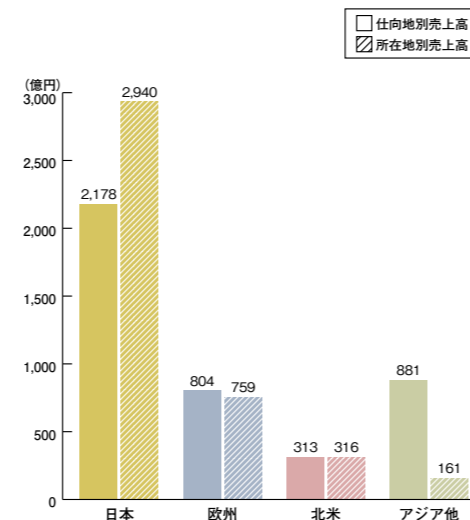
社名	株式会社クラレ	社員数(連結)	6,770人(2008年3月末現在)
代表取締役社長	伊藤文大	本社	東京・大阪
設立	1926年6月	事業所・研究所	倉敷、岡山、新潟、西条、鹿島、つくば
資本金	890億円(2008年3月末現在)	グループ会社	連結子会社 32社・持分法適用会社 6社
売上高(連結)	4,176億円(2007年度)	海外拠点	米国、ドイツ、ベルギー、中国、シンガポール

海外での事業展開

クラレグループの活動領域は「適地生産・適地販売」の方針のもと、北米・欧州・アジアへと広がっており、成長する市場に近い事業拠点から、お客さまに密着した開発・生産・販売活動を行っています。

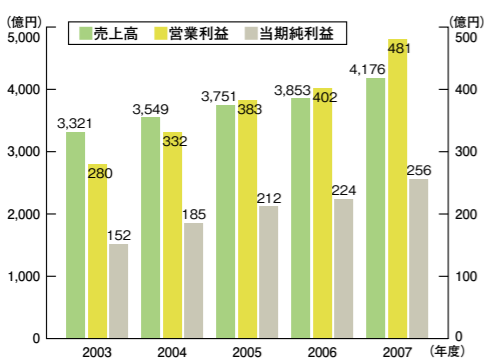


仕向地別・所在地別売上高 (2007年度)

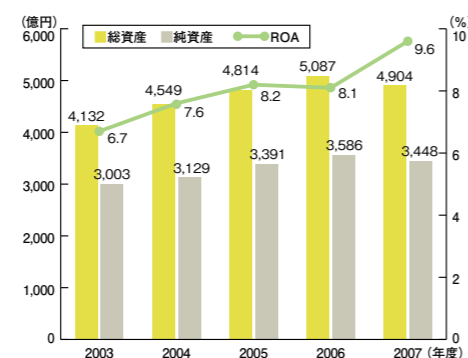


財務ハイライト

連結業績推移

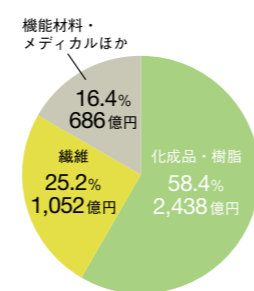


連結総資産・純資産・ROAの推移



※ROA：総資産営業利益率

連結事業別売上高 (2007年度)



編集方針

報告書の対象期間

対象期間 2007年4月1日～2008年3月31日
 (一部、対象期間以前、もしくは以後の活動内容も含まれます)

参考にしたガイドライン

GR「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」
 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

報告書の対象範囲

安全・環境面…(株)クラレと国内事業所内関係会社12社(下記表中のクラレサイト)、および国内事業所外関係会社14社(下記表中の国内関係会社)
 社会面…(株)クラレを中心に、各テーマで取り組み状況に応じて関係会社の一部を含む
 経済面…(株)クラレと連結対象会社38社(計39社)

クラレグループ

国内	海外
(株)クラレ	Kuraray America, Inc.
クラレメディカル(株)	Eval Company of America ※2
クラレエンジニアリング(株)	SEPTON Company of America ※2
クラレテクノ(株)	Kuraray Europe GmbH
クラレルミナス(株)※1	EVAL Europe N.V.
クラレビジネスサービス(株)	Kuraray Specialities Asia Pte., Ltd.
クラレ機工(株)	POVAL ASIA PTE LTD ※3
協精化学(株)	
クラレ西条(株)	
クラレ玉島(株)	
クラレ岡山スピニング(株)	
クラレクラフレックス(株)	
日本海アセチレン(株)	
クラレケミカル(株)	
ケーシー加工(株)※1	
クラレトレーディング(株)	
(株)クラトレボリマー※1	
クラレプラスチックス(株)	
(株)伊吹興産	
クラフレックス茨城(株)※1	
クラレ不動産(株)	
(株)人間カントリー倶楽部※1	
クラレリビング(株)	
(株)テクノソフト	
クラレインテリア(株)	
クラレファスニング(株)	
クラレトラベル・サービス(株)	

※1 2007年度より集計対象に加えました。
 ※2 Eval Company of AmericaとSEPTON Company of Americaは2008年1月にKuraray America, Inc.に吸収合併されました。
 ※3 POVAL ASIA PTE LTDは2008年1月に日本合成化学工業(株)の持分を買取り、100%子会社になったため、2007年度より集計対象に加えました。また、2008年7月にKuraray Asia Pacific Pte. Ltd.へと社名変更しました。

クラレファミリー製品(株)は2007年4月に(株)サブプラスファミリーに事業譲渡したため、2007年度より集計対象から除外しました。
 クラレ新潟化成(株)は2007年3月をもって生産を停止したため、2007年度より集計対象から除外しました。

目次

クラレ会社概要	1-2
トップメッセージ	3-4
マネジメント	
クラレグループの社会的責任	
CSR推進体制	5
コーポレート・ガバナンス	6
コンプライアンス	7
リスク管理	8
コミュニケーション	8
安全への取り組み	
安全への取り組み	
保安確保	9-11
製品安全	12-13
環境への取り組み	
環境への取り組み	
クラレグループ地球環境行動指針	14
推進体制	14
目標と実績	14
温室効果ガスの排出量削減	15
資源の有効利用	16
化学物質の排出量削減	17
国内クラレグループ事業活動の マテリアルフロー	18
環境会計	18
環境データ集	19
社会とともに	
地域・社会との共生	
地域とのコミュニケーション	20
医療・福祉分野	21
教育・文化分野	22
環境分野	23
調達先との協働	
CSR調達	24
グリーン購入	24
働きがいのある職場づくり	
社員に関する基本情報	25
多様性と機会均等	26
人材育成	27
人事評価制度	28
労働衛生	29
対話を大切にした職場づくり	30
地域と連携した障害者雇用の場づくり	31-32
事業活動を通じた社会への貢献	
クラレグループの製品	33-34
社会に役立つクラレグループの ものづくり	35-36
社外からの評価	37
読者の皆さまへ	38

本報告書の中の、〈 〉で示すものはクラレグループの商標です。



世のため、人のために
他人(ひと)のやれないことをやる

社会から信頼を得る企業として、
クラレグループは独自の技術を通じて社会に貢献します

クラレが守り続けるCSRの精神

企業が社会の中で存立するには、事業活動を通じて、その社会的な存在感を高めていく必要があります。そのためには、売上規模を拡大するだけでなく、事業の質の向上を追求する必要があることは言うまでもありません。

クラレは利益だけを追い求めるのではなく、一人ひとりに喜ばれる製品やサービスを提供し、社会から大きな信頼を得ています。そして、「世のため、人のために」に自分たちに何ができるのかをつねに模索し、実行してこそ、価値ある企業としてこれからも存続できると考えます。

この経営姿勢は、「社会から得た財をすべて社会へ還元する」という創業者大原孫三郎の信念や、「企業の利潤は社会的・国民経済的貢献に対する対価でなければならない」という2代目社長大原総一郎の思想が、現在のクラレグループに脈々と受け継がれていることの表れです。

地球環境問題の解決に取り組む

近年関心の高まっている地球環境問題に対しても、クラレが守り続けているこの精神を大切にしながら、今後ますます力を注いでいきたいと考えています。

特に気候変動に影響が大きいとされる温室効果ガス(CO₂など)の排出量削減は、生産過程で多量のエネルギーを消費する化学企業にとって重要な課題であると認識しています。クラレグループは2000年度に環境中期計画を策定して、対策を進めていますが、現在中期的な目標設定も含め、温室効果ガスの削減策を見直しています。

一方、私たちが提供する製品やサービスには、温室効果ガスの削減に役に立つものも多くあります。太陽光発電に使われる高耐久性フィルムの開発など、製品を通じて低炭素社会の実現に貢献できる事業に、取り組んでいます。

また、2008年2月には、排水リサイクル設備など「水処理」

に関する事業を強化するために「クラレアクア株式会社」を合併で設立しました。ここから生み出される新たな技術を通じて、世界的に深刻化する水資源問題の解決にも、寄与していきたいと考えています。

社員の同心協力

クラレとしての社会的責任を果たすために、私は当グループの社員に、次の三つのことを要望しています。

一つ目は、社員一人ひとりが相互に協力して、「安全・安心」に対し最大限尽力することです。事故や災害の回避に最優先で取り組むとともに、お客さまに安心して使っただけの製品の提供にも力を注ぎます。二つ目は、社員が「よき市民」であること。そのために社員全員が社会に対する責任を強く意識し、つねに高い倫理観に裏打ちされた行動をとって欲しいということです。そして最後に、困難な課題に対しても「できない理由」を考えるのではなく、「どうすれば問題を解決できるか」を考える前向きな姿勢を持つことです。

これら三つのことは、社会に役立つものづくりを通じて世の中に貢献し、企業が社会とともに存続していくための要素です。そして、これらに裏付けられた活動を日々積み重ねることが、社会から信頼を得ることに必ずつながると信じています。

事業のグローバル化が進む中、海外拠点も含めたすべての社員に、こうしたクラレグループの姿勢、考え方を浸透させるため、私は目指すべき明確なビジョンを掲げ、率先して行動していきます。

クラレは、独自の新しい技術を育て、社会に役立つ革新的な製品を生み出すとともに、地球規模で社会的責任を果たし、グローバルに高く評価される企業グループを目指します。

株式会社クラレ 代表取締役社長

伊藤 文大

クラレグループの社会的責任

企業理念

個人の尊重
同心協力
価値の創造

クラレは、一人ひとりの個人を尊重し、独創的な技術力によって人々の暮らしに役立つ素材を生み出し、社会的貢献という価値を追求することを企業理念としています。

この理念の下に、クラレは、社会を構成する企業市民とし

企業ミッション

私たちクラレグループは、
独創性の高い技術で産業の新領域を
開拓し、自然環境と生活環境の
向上に寄与します。

て、その力を社会のために還元し、自然環境の保全や社会の持続的な発展に寄与することが企業の存立理由であり、社会的使命であると認識し、すべてのステークホルダーとともに地道な取り組みを続けていきます。

CSR推進体制

クラレは、2003年に「CSR委員会」を設置し、グループとしてのCSR推進体制を強化しています。

CSR委員会は経営レベルの専門委員会として、CSR活動についての全社の方針、目標を検討し、各部署の実行計画を取りまとめ、経営に提案します。各部署は定められた方針や目標にもとづき行動計画を定め、グループ各組織とも

連携し、幅広いCSRテーマの実践に当たります。

CSR委員会には社会・経済、環境安全、温暖化対策、リスク・コンプライアンスの各委員会を置き、さらにテーマごとに関連する部署からなるワーキンググループを設け、行動計画の推進と、実績の評価を行っています。



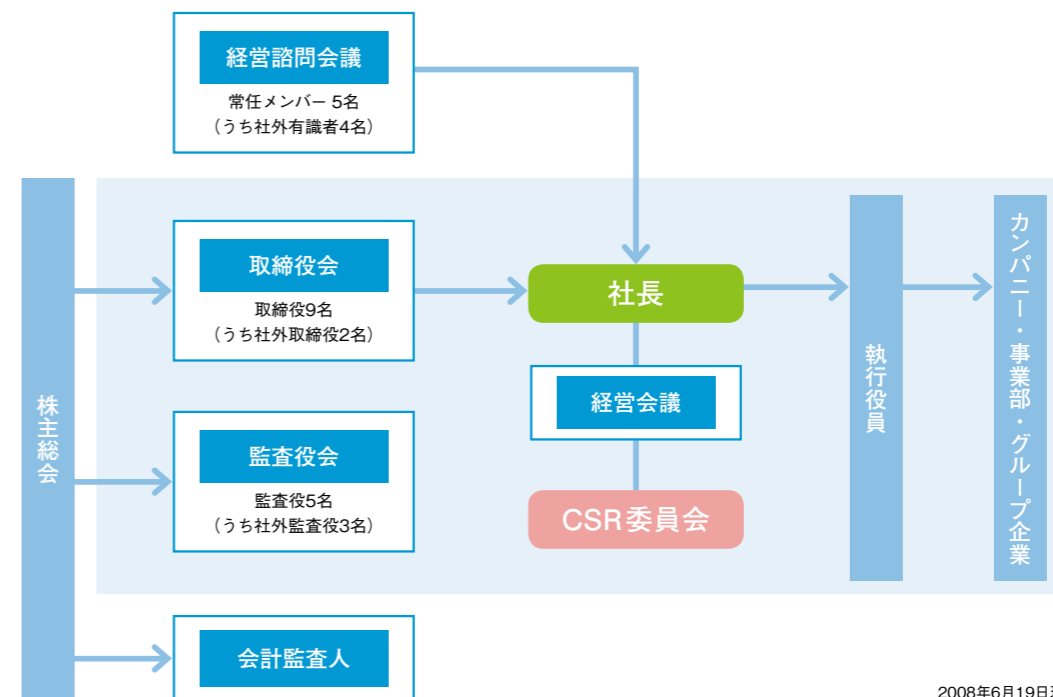
地球温暖化防止の対応を強化するため、2008年2月に「温暖化対策委員会」を新設しました。

コーポレート・ガバナンス

クラレは、株主の皆さまをはじめとする多様なステークホルダーとの適切な関係を維持するためのコーポレート・ガバナンスは、企業としての業績向上と持続的な発展に寄与するだけでなく、企業の社会的責任を果たすうえでも重要

と考えています。

クラレは、透明性と公正性を高めるために、2008年度に社外取締役を選任するなど、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。



2008年6月19日現在

- 社長は、最高責任者としてクラレグループの業務執行を総理します。各組織の業務執行は取締役会で選任された執行役員（任期1年）が行い、執行責任と利益責任を負います。
- 取締役会は、取締役会規則にもとづき経営上の重要事項を審議決定するとともに、業務執行の監督にあたります。取締役の定員は10名、任期は1年です。2008年6月に開催された株主総会で、取締役9名（うち、社外取締役2名）が選任されました。
- 監査役会は、3名の社外監査役を含む5名で構成されています。監査役は取締役会などの重要な会議に出席するほか、グループの事業拠点の往査などを通じて、取締役の職務執行を監査しています。

- 経営諮問会議は、社長の業務執行に関し助言する諮問機関です。企業経営や企業法務に豊富な経験を持つ社外有識者4名を含む5名で構成され、重要な経営方針や経営課題、社長の進退、後継者候補、報酬などに関し社長へ助言しています。
- (株)クラレは、2007年6月に開催された株主総会で承認を得て、「当社の株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（有効期限2年）を導入しました。定められた手続きにもとづき、ルールに従わない買付者や企業価値・株主共同の利益を著しく損なう買付行為に対しては、社外有識者3名で構成される特別委員会の勧告を最大限尊重し、取締役会で対抗措置発動の可否を決定します。

コンプライアンス

クラレは、経営者や、一人ひとりの社員が高い倫理観のもとに適切に行動する組織風土を築き、企業の透明性、公正性を確保するため、グループとしてコンプライアンスへの取り組みを強化しています。

2007年度は、日本・米国に引き続き、クラレグループ全社員への配布を目指し、欧州・中国でも、各国の法令に対応したコンプライアンス・ハンドブックを作成しています。

また、「インサイダー取引管理規定」を全面改定して情報管理とインサイダー取引管理を一体運営する仕組みを整備するとともに、国内クラレグループ社員を対象にした講習会を開催しました。



インサイダー取引規制講習会

企業活動規準

「企業活動規準」(1998年制定)は、社会との幅広いかわりの中で、すべての企業活動が地球環境、市民社会と調和したものであるための社員一人ひとりの倫理行動のあり方を表明しています。

さらに、企業活動規準を具体的に表現した「行動規範」と事例解説を含む「コンプライアンス・ガイドライン」をハンドブックとしてまとめ、社員に配布しています。

企業活動規準

私たちは、安全に配慮した商品・サービスを開発、提供します。
 私たちは、自由、公正、透明な取引を実践します。
 私たちは、社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
 私たちは、地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
 私たちは、営業秘密を含む知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。

コンプライアンス・カード

法令遵守と企業倫理の徹底を図るため、社長による「コンプライアンス宣言」と、企業活動規準などを記載したコンプライアンス・カードを配布し、全社員が携行しています。

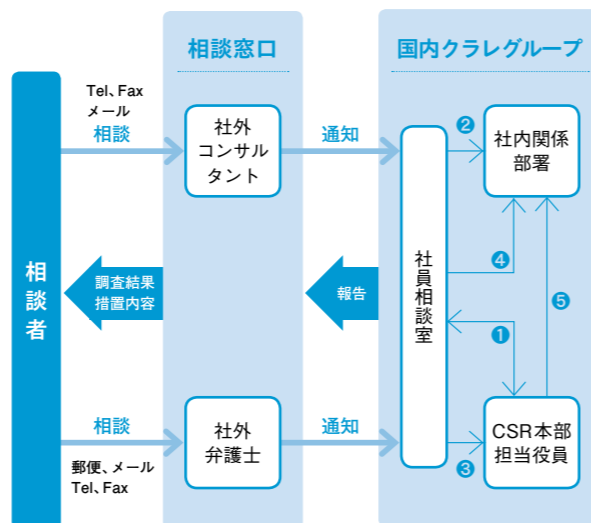
コンプライアンス宣言

- ① 私たちは、法令・企業活動規準を遵守します。
- ② 私たちは、企業利益よりも法令・企業活動規準を優先します。
- ③ 私たちは、法令・企業活動規準に反する行為、社会の信頼を裏切ると見られるような行為を防止するよう努めます。

内部通報制度

国内クラレグループ全社員を対象として、コンプライアンス違反を防止、または早期に発見し、解決するための内部通報制度として、クラレグループ社員相談室を設置しています。相談窓口には弁護士や専門のコンサルタントを起用し、不正、不法行為などの通報だけでなく、職場における解決困難な問題についても、個々の社員のプライバシーを保護しながら、直接相談を受けています。

内部通報制度



- ① 受付の報告、調査の指示(内容に応じ実施)
- ② 調査
- ③ 調査結果の報告
- ④ 是正勧告
- ⑤ 是正命令

リスク管理

クラレは、法令遵守、環境保全、PL^{*}などのリスクを管理する統括部署を設け、全社的な観点でグループとしてのリスク管理を行っています。

2007年4月にCSR本部にリスクマネジメント部を新設し、

重点リスクの評価を実施するとともに、全社的リスクマネジメントシステムの構築を進めています。

※P.12をご参照ください。

コミュニケーション

2007年5月に制定した「クラレグループ情報開示ポリシー」(<http://www.kuraray.co.jp/disclosure.html>)にのっとり、タイムリーで充実した情報開示をもとに、社会との双方向のコミュニケーションを推進しています。

IR活動

当社は株主の皆さまとのコミュニケーションのさらなる向上を図るため、ホームページ(<http://www.kuraray.co.jp/ir/index.html>)などを活用し、投資家説明会、株主総会の動画や、さまざまな投資家向けの情報を提供しています。

また、2007年8月に東京ビッグサイトで開催された「日経IRフェア2007」に出展し、多くの個人投資家の皆さまにクラレグループへの理解・関心を深めていただくことができました。今後とも資本市場から適切に評価されるよう、信頼性と公正性を重視したIR^{*}活動を行ってまいります。



2007年8月31日、9月1日 日経IRフェア2007

IR
 Investor Relations の略。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を公平に継続して提供していく活動。

エコプロダクツ 2007

クラレグループは東京ビッグサイトで開催された国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ2007」に出展し、一般の方々をはじめとする約3,000人の来場者に事業を通じた環境への取り組みを説明しました。「ファイン化(ユニークで高品質、軽量かつ少量の使用で高機能を発揮する素材へのシフト)のできるECO」というテーマで、クラレグループの製品を紹介しました。



2007年12月13日～15日 エコプロダクツ2007

企業広告キャンペーン

社会への情報発信の基盤となる知名度の向上を目指して、2007年11月よりテレビCMを中心とした企業広告キャンペーンを展開しています。未来にむけてともに進化していこうとの思いを込めた「未来に化ける新素材」と「ミラバケツソ。」のキャッチフレーズとともに、若い世代を中心にして、社名の知名度は大幅に向上しました。



CMのワンカット(CMキャラクター成海璃子さん)

安全への取り組み

保安確保

方針 考え方

労働災害の発生を未然に防ぐには、職場に存在するリスクを見つけ出し、そのリスクを低減することが必要です。クラレグループでは、労働安全マネジメントシステムの適切な運用とともに、社員の安全レベル向上に努め、安全で事故のない職場を目指しています。万が一、事故が発生した場合には、早急に対応策を講じるとともに事例の共有を図るなど、再発防止にも努めています。

保安確保に関する理念・基本方針

2006年度に実施した「特別安全活動」で掲げたスローガン「安全はすべての礎」を理念として受け継ぎ、毎年基本方針を定め、労働安全・保安防災活動を進めています。

●保安の確保に関する理念

「安全はすべての礎」

●保安の確保に関する基本方針(2008年度)

- ①「安全第一、生産第二」を徹底すること
- ②「安全第一」を実践するために、何よりも「確認」を怠らないこと
- ③各組織単位でトップの具体的方針を明確にすること

推進体制

国内クラレグループでは、2007年5月に制定した「安全

目標と実績

	項目	バウンダリー	到達目標	2007年度			2008年度 目標
				目標	実績	評価	
安全衛生	労働災害 休業災害 度数率	国内クラレ グループ	0(無災害)	0.2以下	0.4	△	0.1以下
			安全で快適な職場、 安全風土の確立	職場の潜在リスク 抽出と対策の推進	リスクアセスメントによる 安全な職場づくり	○	・非定常作業のリスクア セスメントの強化 ・個人レベルの安全レ ベルの強化
保安防災	保安事故件数	国内クラレ グループ	0件	0件	4件	△	0件
			プラント設備の 本質安全化	保安確保の風土 確立	リスクアセスメントの 適用と対策の実施	△	・リスクアセスメントのレ ベル向上 ・協力会社の安全管理強 化

評価 ○：達成 △：概ね達成 △：さらに取り組みが必要

活動マネジメント規定」にもとづき、年度ごとに計画を立て労働安全・保安防災に取り組んでいます。

毎年1回開催する社長および担当役員が出席する安全推進会議で、環境安全センターは、活動実績の総括評価を行うとともに、次年度の活動方針を定めます。さらに、年2回部署ごとの活動計画と活動状況について、安全活動現場検証を行っています。

2007年度の安全活動現場検証では、全生産事業所および関係会社3社において、リスクアセスメントの定着状況など、安全活動のPDCAを検証しました。全事業所と各関係会社は、この検証での指摘事項に対してアクションプランを立て改善を進めています。

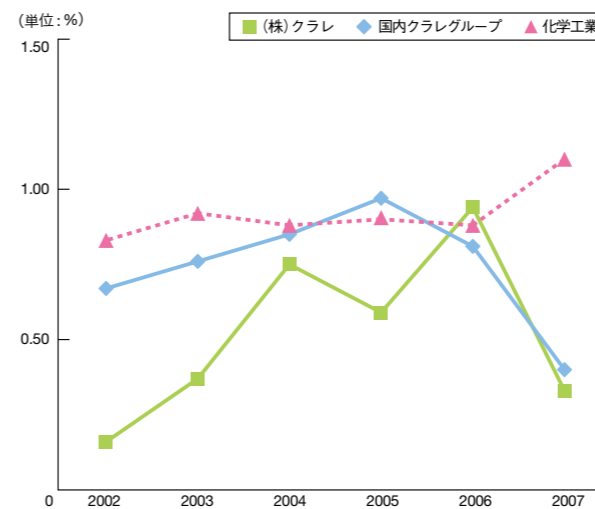
また、安全活動現場検証には、他事業所の生産部長なども参加することで、有効な情報や事例を共有化しています。

労働災害

2007年度は安全推進体制のもとで、安全衛生活動のPDCA管理の強化や、各職場でのリスクアセスメントの推進などに注力しました。

その結果、国内クラレグループの休業災害度数率^{*}は0.4となり、目標の0.2には及びませんでした。2006年度の0.7から改善しました。

労働安全成績(休業災害度数率)の推移



いても引き続き調査を行い、調査を終了したのから順次対策を進めていきます。

●総合防災訓練

万一の事故に備え、事業所ごとに防災組織を編成し、定期的な訓練を行っています。2007年度も火災や地震、漏洩、夜間発生などさまざまな状況を想定し、全事業所あわせて9回の防災訓練を実施し、関係者約2,300人が参加しました。

西条事業所では、グリセリンの漏洩・引火火災を想定し、本社緊急対策本部との連携による訓練を実施。社員84人が訓練に参加しました。



事業所の防災訓練風景

保安事故

2007年度に小規模ながら4件の事故・火災が発生しました。このうち9月に発生した岡山事業所のドラム缶破裂事故は、人的被害はありませんでしたが、生産工程外で保管していた試作品廃液の性状確認の不足が原因でした。直ちに全社的に試作品の管理規準を見直し、再発防止に努めています。その他は、危険物タンクの変形1件、小火災2件でした。

保安防災

●地震対策

地震リスク対応として、全事業所を対象に建築物・プラントと社員住宅の地震対策調査および耐震補強の取り組みを進めています。調査対象54件のうち、2007年度までに28%にあたる15件の調査を完了しました。残る対象につ

クラレグループ レスポンシブル・ケア (RC) 大会

クラレグループは、社長、役員、社員が一堂に会し、「労働安全」「保安防災」「環境保全」などRC活動*に関する先進事例を紹介し、討議することでグループ全体のレベルアップを図るため、毎年「RC大会」を開催しています。

2007年度は、「労働安全」「保安防災」に焦点をあて「掘り出そう職場に潜む小さなリスク みんなで創る本質安全」をスローガンに掲げ、取り組み事例の報告や討議、長岡技術科学大学 杉本旭先生による本質安全の機械設計に関する特別講演が行われました。参加者全員が安全に事業活動を行う重要性を再認識するとともに、よりいっそう、安全への取り組みを強化していくことを決意しました。



RC大会

レスポンシブル・ケア (RC) 活動

化学物質を取り扱う企業が、製品の開発から製造、使用、廃棄までのあらゆる過程で、自主的に責任を持って環境、安全、健康を確保し、その内容を公表していく活動。日本では、1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会が設立され、(株)クラレは協議会設立時から参画しています。

物流安全活動

クラレ製品を安全にお客さまへお届けするために、2007年度は「組織」「現場」「訓練」の三本柱で物流安全活動を推進し、具体的には次のような活動を行いました。

- 組織**：物流安全協議会を組織し、協力物流事業者も一体となった組織的な取り組みを行っています。2007年度は化学製品を多く扱う新潟、鹿島の両事業所および東京本社でそれぞれ2回の定例会を実施しました。
- 現場**：現場視察を実施し現場の安全性の維持向上に努めています。2007年度は全事業所にて購買・物流本部による査察を実施しました。
- 訓練**：事業所内外での事故を想定して、実際の車両や機材を使った対応訓練を実施し、有事に備えています。新潟事業所で行われた訓練ではすべての協力物流事業者が参加し、活発な意見が交わされました。



物流事故を想定した訓練(新潟事業所)

今後の課題と目標

全体の安全レベルは着実に向上していると考えています
が、ゼロ災害達成には社員全員の安全レベル向上が必須

です。今後は、個人レベルでの安全対応力強化まで、より
踏み込んだ安全活動を展開します。

製品安全

方針 考え方

安全に配慮した製品・サービスを開発、提供することを「企業活動規準」の第1項に掲げ、「製品安全に関する基本方針および行動指針」にもとづいて活動しています。

また、品質マネジメントシステム(ISO 9001等)の認証を取得し継続的に活動の改善を図るとともに、お客さまを重視した品質保証活動を行っています。

製品安全基本方針

クラレグループは、製品安全に関する基本方針および行動指針を定め、それにそった活動を進めることにより、お客さまに安全かつ高品質な製品を提供しています。

基本方針および行動指針は、社内掲示板(イントラネット)上で公開しています。

製品安全基本方針

安全で信頼できる製品の供給を通じて、顧客のニーズに応え、豊かでゆとりある社会の実現に貢献することを目指す。

製品安全行動指針

- ①安全関連法規および最新の技術水準を踏まえ、社会が期待する安全性レベルを満たす製品を供給する。
- ②供給する製品について予測される危険を最小に抑える。
- ③すべての製品がそれぞれに要求される品質安全基準を満たすよう、適切な品質管理システムを維持する。
- ④製品の不適切な使用・取り扱いによる事故を防止するため、顧客やユーザーに正しい製品情報を提供する。
- ⑤より安全な新製品の開発、製品安全技術の向上に努める。
- ⑥製品安全の確保・向上と迅速な事故対応のため、情報収集、社内外の協力体制の強化に努める。
- ⑦全社員の製品安全意識の高揚と製品安全を担う人材の育成に努める。

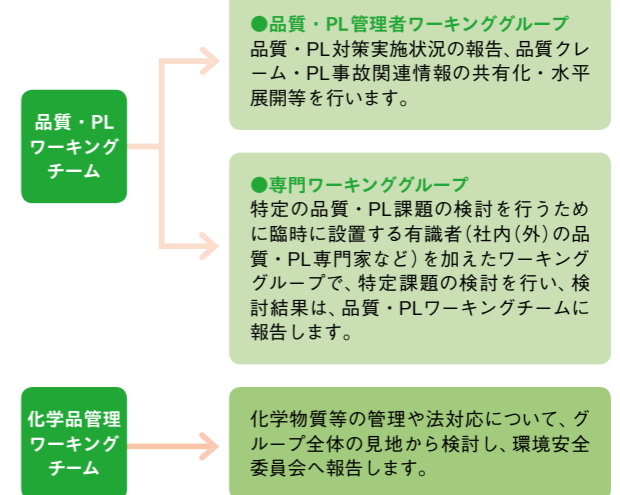
推進体制

CSR委員会の下部組織である「環境安全委員会」の中に、品質管理のための「品質・PL^{*}ワーキングチーム」と化学物質管理のための「化学物質管理ワーキングチーム」を設置し、製品安全の活動を推進しています。これらチームは、検討が必要な課題が見出された場合には、その対応策や改善策

を審議して「環境安全委員会」および「CSR委員会」に提案します。

「品質・PLワーキングチーム」は2007年度に引き続き2008年度も製品安全の確保に力を入れて活動します。また「化学物質管理ワーキングチーム」は2007年度に引き続き2008年度もEU REACH規制への対応を重点的に行っていきます。

推進体制の組織図



品質・PLワーキングチーム

クラレグループにおける品質クレーム・PL事故の予防および事故への適切な対応を行います。チーム内には、2種類のワーキンググループがあり、情報収集や課題の改善策検討などを担当します。

PL (Product Liability)

製品の欠陥によって、人の生命、身体、財産に損害を与えた場合に、その製品を製造または加工した業者などに求められる損害賠償責任。消費者保護の立場から、製品の欠陥が証明されれば、製造業者は過失の有無にかかわらず責任を負うとされています。

環境への取り組み

化学品管理

クラレグループでは、「化学物質総合管理規定」などにもとづいて、開発・製造・販売の段階で関連法規制を調査・確認し、製品を製造・販売する各国の法規制を遵守しています。特に欧州の化学物質規制(REACH[®])に対しては、予備登録や本登録への対応を準備しています。

また、化学品の安全な取り扱いを確保するために「製品安全データシート管理規定」を定め、この規定にもとづいて化学物質等安全性データシート(MSDS[®])を作成し提供しています。さらに、法規で指定された物質以外の化学製品についてもMSDSを提供しており、主要製品についてはホームページ(<http://www.kuraray.co.jp/products/msds/index.html>)でも公開しています。

REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals; 化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)
EUの化学品規制。①既存化学物質と新規化学物質の扱いをほぼ同等に変更、②行政が行っていたリスク評価を事業者の義務に変更、③サプライチェーンを通じた化学物質の安全性や取り扱いに関する情報の共有を双方向で強化、④成形品に含まれる化学物質の有無や用途について情報の把握を要求、などの新しいアプローチが導入されました。2008年6月より、既存化学物質については予備登録申請、新規化学物質については本登録申請等の手続きが始まりました。

MSDS (Material Safety Data Sheet; 化学物質等安全性データシート)
化学製品の危険有害性について安全な取り扱いを確保するために、その物質名、供給者名、分類、危険有害性、安全対策および緊急事態の対策などに関する詳細で不可欠な情報を記載した資料。

品質保証

クラレグループでは、製品品質の保証強化のため、品質マネジメントシステム(ISO 9001等)の認証を取得し、PDCAサイクル[®]にもとづいた品質保証活動を行っています。この品質マネジメントシステムや「製品安全行動指針」にもとづいて、顧客要求事項や顧客満足度などの製品情報を収集し、お客さまの要求に応えるために製品の品質向上に努めています。

2007年度は、製品の偽装が社会問題となりました。クラレグループでは、当グループの再生材料を使用した製品、防耐火材料製品、防災製品について自己点検を行い、これらの製品でデータや表示の偽装の疑いがないことを確認しました。

今後の課題と目標

クラレグループの品質・PL管理、化学品管理の強化のため、製品ごとに行われている品質管理を統括する全社

PDCA サイクル

PDCAとは、「Plan(計画)」「Do(実施)」「Check(点検)」「Action(是正処置)」のイニシャルをとったもの。まず計画(Plan)を立て、それを実施(Do)し、計画内容通りに実行されたかどうか点検し(Check)、問題や改善点があれば、是正処置を行って(Action)、継続的に業務改善を図る一連の流れを指します。

品質マネジメントシステム認証一覧

- ISO 9001
 - クラレ 新潟事業所
 - クラレ 鹿島事業所
 - クラレ 岡山事業所
 - クラレ 倉敷事業所(膜生産開発部、フィルム生産・技術開発部)
 - クラレ玉島(株)(エステル工場)
 - クラレ 西条事業所
 - クラレプラスチックス(株)(伊吹工場)
 - クラレケミカル(株)(鶴海工場)
 - クラレメディカル(株)
 - クラレファスニング(株)(生産・開発本部)
 - クラレエンジニアリング(株)
 - クラレトレーディング(株)(クラトレ化工事業部)
 - クラレテクノ(株)(ビル管理サービス事業部倉敷地区)
 - EVAL Europe N.V.
 - Kuraray Europe GmbH (PVA/PVB Division; Trosifol Division)
 - Kuraray America, Inc. (Eval Company of America, SEPTON Company of America)
 - POVAL ASIA PTE LTD

※事業所・工場の敷地内に所在する下記のグループ会社を含みます
 クラレ西条(株)、クラレクラフレックス(株)、クラレ岡山スピニング(株)、クラレテクノ(株)、ケーシー加工(株)
 ※会社統合により、以下の組織名称を2008年4月から変更しています
 Eval Company of America → EVAL Business Unit
 SEPTON Company of America → SEPTON Business Unit

- ISO 13485 (医療機器)
 - クラレメディカル(株)
- ISO/TS 16949 (自動車供給業者及び関連業務部門組織)
 - EVAL Europe N.V.
 - Kuraray Europe GmbH (Trosifol Division) ● OOOTROSIFOL

製品苦情への対応

品質マネジメントシステムや「PL関連事故対応および品質クレーム報告規定」にもとづき、品質にかかわる苦情への迅速な対応に努めています。いただいた貴重なご意見、ご要望は真摯に受け止め、事業活動に生かしています。2007年度は、製品に起因する重大な健康被害・火災の発生などの事例はありませんでした。

的マネジメント体制の構築を進めています。また、これらへの意識向上などの活動を引き続き推進していきます。

クラレグループ地球環境行動指針

クラレグループは次の基本方針と行動原則を定め、地球環境保全活動に取り組んでいます。

●基本方針

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて、次世代への責任を果たしていきます。この基本方針を実践するために、以下の活動を行います。

- ①環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。
- ②持続性のある地球環境改善活動を行う。
- ③地球環境改善に貢献する技術、商品の開発を行う。

●行動原則

- ①環境への有害化学物質の排出量の継続的削減
- ②気候変動防止のため、温室効果ガスの排出削減と、エネルギー効率向上
- ③省資源、再使用、リサイクルの推進
- ④環境改善技術および環境負荷の少ない商品の開発と提供
- ⑤環境に優しい商品の使用
- ⑥環境情報の公表と社会との対話
- ⑦環境に対する意識向上と環境管理レベルの向上
- ⑧ステークホルダーとの連携

推進体制

クラレは、全社的、中長期的な視点から環境保全活動に取り組むため、CSR委員会およびその下部組織として環境安全委員会・温暖化対策委員会を設け、グループ全体の地球温暖化防止対策や、資源の有効利用、排出物管理などの活動を推進しています。

また、担当役員のもとに、環境保全の統括部署として、本社に環境安全センターを、各事業所に環境安全部・課を設置しています。

●環境マネジメントシステム(ISO14001)認証一覧はP.19をご参照ください。

目標と実績

	項目	バウンダリー	到達目標	2007年度			2008年度目標	掲載頁
				目標	実績	評価		
環境保全	地球温暖化防止	温室効果ガスの二酸化炭素換算排出量	クラレサイト	2010年度に1990年度対比10%削減(排出量:1,226千トン-CO ₂)	—	1990年度対比:3.8%削減(排出量:1,310千トン-CO ₂)	○	・1990年度対比:4.0%削減(排出量:1,308千トン-CO ₂) P.15
	資源の有効利用	廃棄物有効利用率	国内クラレグループ	90%以上維持	90%以上	89%	○	・有効利用化の推進 ・廃棄物の発生抑制 P.16
	排出物管理	日化協PRTR対象物質の排出量	国内クラレグループ	1999年度対比90%削減	90%削減	1999年度対比:67%削減	△	・82%削減 ・90%削減にむけ、取り組み継続 P.17
		VOC排出量	国内クラレグループ	2010年度に2004年度対比:80%削減	2004年度対比:52%削減	—	◎	—

評価 ◎:達成 ○:概ね達成 △:さらに取り組みが必要

温室効果ガスの排出量削減

方針・考え方

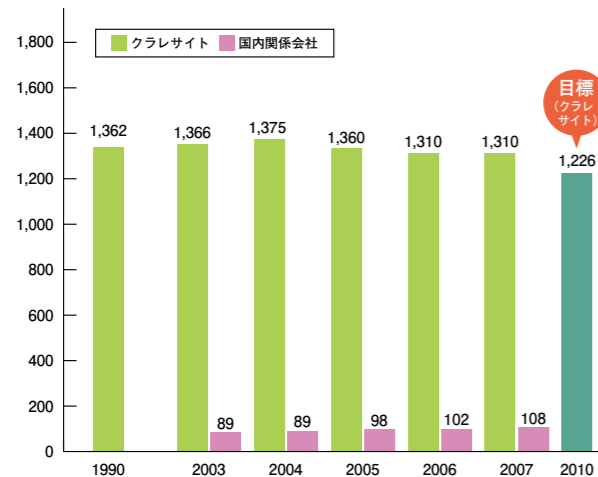
クラレは、環境中期計画の中で、温室効果ガスの排出量を、2010年度までに1990年度の10%削減することを目標にして、①省エネルギーの推進、②クリーン燃料への転換、③新エネルギーの導入、を柱に活動しています。

クラレは、発電用ボイラーの燃料転換やバイオマス発電の拡大などにより、2005年度から2007年度までの3年間で16万トン相当(1990年度比約12%)の温室効果ガスの排出量削減を図りました。

一方、この間の酢酸ビニル系事業の成長影響(約8万トン増)など事業構成変化による排出量の増加があり、2007年度のクラレサイトの排出量は、1990年度比52千トン-CO₂(3.8%)減の1,310千トン-CO₂となりました。

2007年度の国内関係会社の排出量は108千トン-CO₂、海外関係会社の排出量は471千トン-CO₂で、クラレグループの排出量は1,889千トン-CO₂となりました。

温室効果ガス排出量(千トン-CO₂)



各事業所での取り組み

●倉敷事業所統合

倉敷事業所の玉島地区への移転・統合にあわせ、これまで9つの建物(280部屋)に分散していた研究・開発部署を「生産・技術開発センター」として1カ所に集約。新しい施設には太陽光発電設備(87kW)や空調設備に水和スラリー蓄

熱システム*を導入し、高効率照明、省エネ型建築部材使用などの省エネルギー対策も導入しました。これらの省エネ対策とエネルギーロス低減の結果、2007年度に当該部署の排出した温室効果ガスは約6,000トンとなり、統合前の2005年度と比較して、約4,500トン(40%)減少しました。



水和スラリー設備

水和スラリー蓄熱システム

冷水と比較して約2~3倍の熱容量を持ち、輸送性にすぐれるスラリー(どろどろとした粥状の流体)を冷熱媒体として使用した空調設備。冷熱の搬送動力の低減、冷凍機の高効率運転が可能であり、省エネ対策の新技術です。

●燃焼効率のコンピューター解析による効率化

エネルギー使用効率の向上を図るため、発電用ボイラー内の燃焼メカニズムをコンピューター解析し、効率的な運転条件への改善を図っています。2007年度は岡山事業所の主力ボイラーを解析し、12,000トン/年の温室効果ガスを削減しました。

輸送時の環境負荷低減

クラレでは、改正省エネルギー法で定められた目標である「エネルギー消費原単位年間1%削減」を達成するために、モーダルシフト*や輸送の効率化に努めています。2007年度のCO₂排出量は、約12,800トンで、2006年度と比較して約90トン減少し、エネルギー消費原単位は5.3%削減しました。

モーダルシフト

輸送手段をトラックから、環境負荷の低い鉄道や船舶に切り替えること。

今後の課題と目標

温室効果ガスの排出量削減は、引き続き2010年度排出量の1990年度比10%削減を目標にして、生産工程の改善や発電設備の効率化などの対策を進めていきます。

また、2007年度に、新設した温暖化対策委員会を中心に検討し、2013年以降に向けた新たな削減目標を設定するとともに、追加対策の検討、新技術の開発を進めていきます。

資源の有効利用

方針・考え方

クラレグループは、発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)を進め、廃棄物の有効利用率向上と、ゼロエミッション(最終埋立処分量1%以下)の維持向上に努めます。

ゼロエミッションの推進

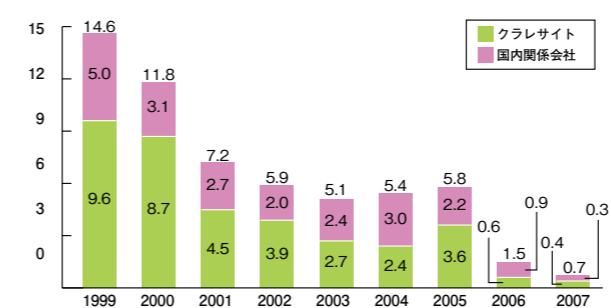
国内クラレグループでは、2002年度からゼロエミッション*に本格的に取り組んでいます。

2007年度は国内関係会社での最終処分量の低減に取り組んだ結果、新たにクラレケミカル(株)、クラレファスニング(株)、クラフレックス茨城(株)を含む国内グループ9事業所・関係会社がゼロエミッションを達成しました。また従来の各種有効利用技術も引き続き活用した結果、国内クラレグループの最終埋立処分量は486トン、0.6%となり昨年度の921トン、1.0%から向上しました。

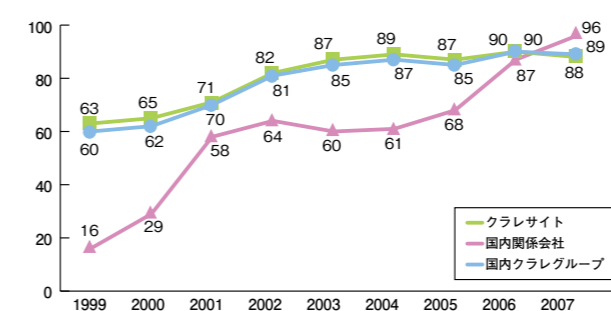
クラレグループのゼロエミッション

国内クラレグループでは、最終埋立処分量をゼロにすることはライフサイクルアセスメントの観点から有効ではないと考え、ゼロエミッションを「最終埋立処分量1%以下」として、取り組みを進めています。

未利用外部処分量の推移(千トン)



廃棄物有効利用率の推移(%)



各事業所での取り組み

●岡山事業所PC灰のリサイクル

岡山事業所にある5基の発電用ボイラーのうち3基は、燃料としてPC(ペトロコックス)*を使用しています。PCをボイラーで燃焼するとPC灰が発生するため、これまでは年間1万トンを超えるPC灰を社外で燃料として再利用していました。2007年下期に、PC灰に含まれている燃料成分を分離回収しボイラーの補助燃料とする設備を同事業所内に新設し、社内リサイクルの運用を開始しました。これにより2008年度以降は、廃棄物の発生量を大幅に削減できる見込みです。

●倉敷事業所(酒津)の撤去工事ともなう廃棄物の有効利用

倉敷事業所の玉島地区への移転統合により、2007年度に不要となった建物や設備の撤去を行いました。

撤去に際し、不要となった設備の他事業所への転用、木製廃建材を同事業所のバイオマス発電*の燃料として使用するなど廃棄物の有効利用に努めました。



PC灰リサイクル設備

PC(ペトロコックス)
石油を精製した後に残る黒色の物質。石炭と同様にボイラーの燃料として使用できます。

バイオマス発電
木屑、木製廃建材などを発電用ボイラーの燃料とする発電設備。クラレは2002年8月に倉敷事業所の玉島地区で発電を開始しました。

今後の課題と目標

分別による廃棄物の有効利用の促進、有効利用法の開発を推進して、未利用外部処分量(エネルギー回収をしない単純焼却、最終埋立処分の総量)の削減を図ります。また、廃棄物の発生量を削減するため製品歩留まりの向上、クラレグループ内での再資源化を推進します。

化学物質の排出量削減

方針・考え方

クラレグループは、「クラレグループ地球環境行動指針」にそって、環境保全、安全衛生の観点から取り扱う化学物質を開発から最終消費・廃棄に至るまでのプロセス全体を管理するとともに、排出量の削減に取り組めます。

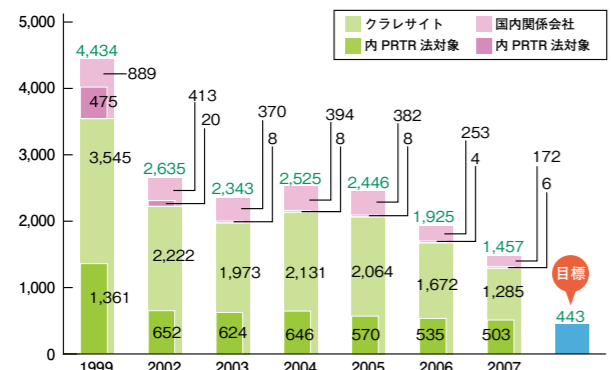
化学物質の排出量削減活動

クラレでは、化学物質を適切に管理するとともに排出量の削減に取り組んでいます。その一環として、国内クラレグループでは、環境中期計画の中で2007年度に日化協PRTR*対象物質の排出量を1999年度比90%削減することを目標として活動を進めてきました。

2007年度は、岡山事業所に排水処理用PVAゲル<クラゲール>*を用いた微生物処理設備を増設、鹿島事業所に、排出物を燃焼処理により無害化した後に大気へ排出するフレアスタックを増設するなどの設備投資を行うことで、対象物質排出量は2006年度比468トン減の1,457トンとなりましたが、1999年度比では67%の削減にとどまりました。

今後も、PRTR対象物質については、有機溶剤を使用しない製造プロセスへの転換や、無害化処理の拡大などの対策を進め、排出量を1999年度比90%削減(排出量443トン)することを目標に、引き続き取り組んでいきます。

日化協PRTR対象物質排出量の推移(トン)



PRTR活動

対象とする化学物質の排出量を把握し、自主的に削減を図る活動。化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)施行以前から(社)日本化学工業協会(日化協)が行っており、クラレは開始当初からこの活動に参加しています。日化協PRTR活動対象480物質(うち、PRTR法対象354物質)のうち、国内クラレグループでは79物質(うち、PRTR法対象50物質)が対象になっています。

<クラゲール>

<クラゲール>についての詳細は、P.35～36をご参照ください。

VOC*の削減

2006年度からVOC規制が始まりました。クラレグループで扱っている物質ではメタノール、トルエン、ホルムアルデヒドなどが規制の対象となっています。国内クラレグループのVOCへの対応については、使用しているVOC規制の対象物質がすべて日化協PRTR活動対象物質に含まれることから、PRTR活動の一環として削減に取り組んでいます。

VOC(揮発性有機化合物)

常温常圧で大気中に容易に揮発する有機化学物質の総称。VOCが大気や水質などに放出されると、公害や健康被害を引き起こす原因となる可能性があります。

PCB*含有汚泥廃棄物の地上保管

新潟事業所では、旧富山工場閉鎖にともない移送されたPCB含有(1%)の汚泥廃棄物を、PCB処理特別措置法に従い、1981年からコンクリート製の地下貯槽で適切に保管、管理してきました。しかし、保管開始から25年以上が経過し、貯槽からの漏洩リスクがあるため、全量をドラム缶に詰め替え、倉庫内で保管する工事を実施しました。工事は、周辺環境や土壌への汚染を防ぐため密閉されたテント内で行い、終了後、周辺環境や土壌への汚染がないことを確認しました。

PCB(ポリ塩化ビフェニル)

化学的に合成された有機塩素化合物の一つ。生体内に取り込まれやすく残留性が高いため、さまざまな症状を引き起こすことが報告されています。

環境に配慮した新規生産技術の開発

クラレは、<クラリーノ>の新ラインナップである環境対応型人工皮革<ティレニーナ>の新規生産技術を開発し、岡山事業所に量産設備の新設を決定しました。

新規技術は、製造工程中に有機溶剤を使用しないことが従来と大きく異なります。これにより、VOCの大幅削減、また工程短縮化によるCO₂排出量の削減(対当社従来システム比較30%以上)が可能となります。

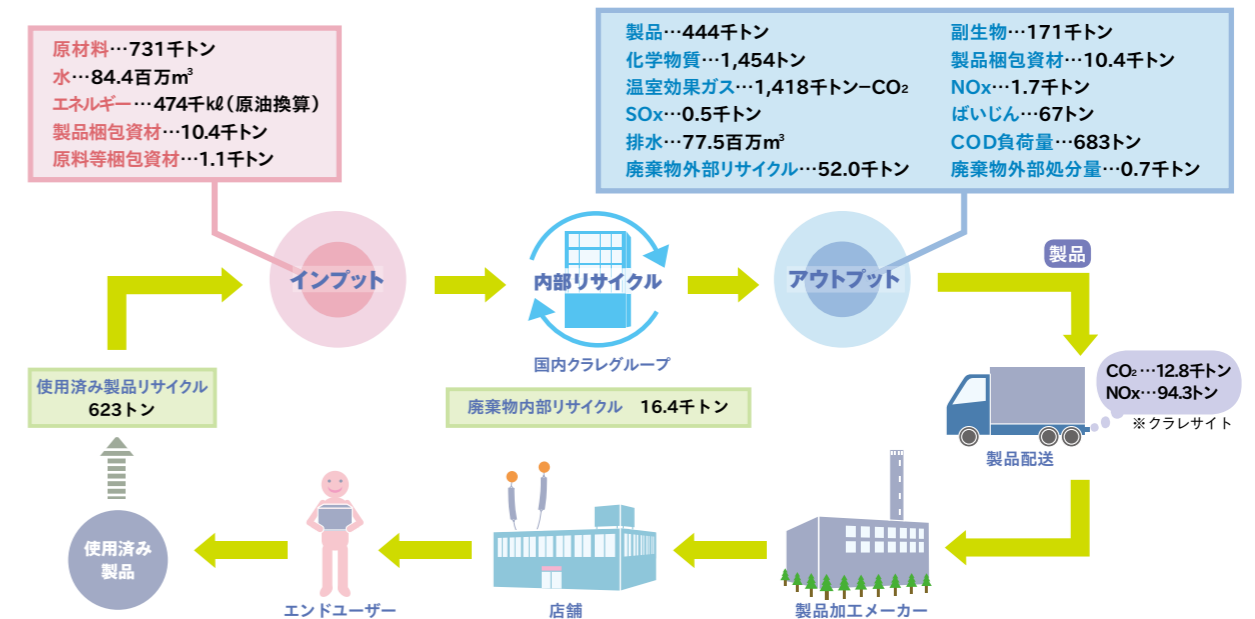
今後の課題と目標

PRTR活動対象物質の排出削減比(1999年度対比)は、2006年度の57%削減に対し、2007年度は67%に改善されました。今後も、生産技術の見直しを含めて削減方法を検討し、引き続き90%削減の目標達成を目指します。

国内クラレグループ事業活動のマテリアルフロー(2007年度)

クラレグループは、事業活動の中で多くのエネルギー、化学物質および水資源などを使用しています。投入する資源、

排出する物質を定量的に把握し、事業活動にともなう環境負荷を低減するために役立っています。



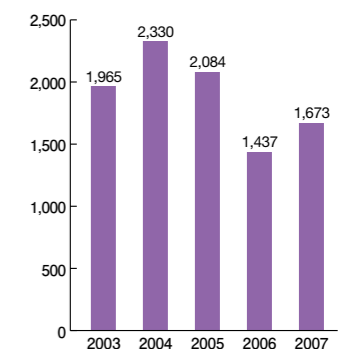
環境会計

環境保全コスト(百万円)

分類	投資額	費用額	主な内容	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	903	2,319	環境設備の運転費用、化学物質の排出防止対策排水処理施設増強
	地球環境保全コスト	315	826	ボイラー燃料転換(重油→天然ガス)発電所エネルギー効率改善(タービン新設など)
	資源環境コスト	455	488	廃棄物の減量化、リサイクル処理
	計	1,673	3,633	
上・下流コスト	-	162	梱包材料の回収・再使用、容器包装の改良	
管理活動コスト	-	124	ISO14001、環境測定、環境教育	
研究開発コスト	-	189	環境配慮型製品の開発	
社会活動コスト	-	1	緑化、美化、地域住民への環境情報提供	
環境損傷コスト	-	0		
合計	1,673	4,109		

●当該期間の投資額の総計361億円(環境会計の対象範囲にあわせて合算)
●当該期間の研究開発費の総計106億円(同上)

環境設備投資額(百万円)



環境保全効果

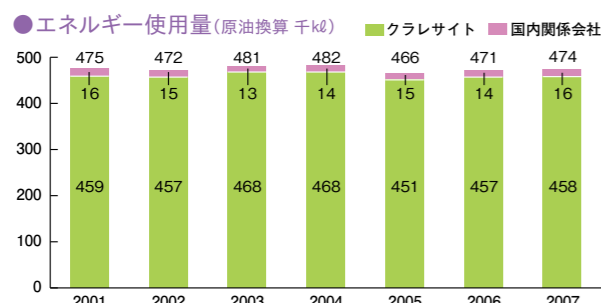
区分	単位	2006年度	2007年度	差	
公害防止効果	SOx排出量	トン	609	484	▲125
	NOx排出量	トン	1,667	1,618	▲49
	ばいじん排出量	トン	47	54	7
	PRTR法対象物質排出量	トン	1,672	1,285	▲387
	COD負荷量	トン	743	679	▲64
地球環境保全活動	温室効果ガス排出量	千トン-CO ₂	1,311	1,310	▲1
	エネルギー使用量	千kℓ(原油換算)	457	458	1
資源循環活動	廃棄物未利用外部処分量	トン	657	406	▲251
	廃棄物有効利用率	%	90	88	▲2
	水資源使用量	百万m ³	84.7	82.5	▲2.2
総排水量	百万m ³	76.8	75.9	▲0.9	

①環境会計の集計に当たっての前提条件
●対象期間…2007年4月1日～2008年3月31日
●対象範囲…クラレ
②環境保全コストの算定基準
●減価償却費…定額法
●複合コストの計上基準
原則100%環境保全項目にコストを計上していますが、一部按分集計をしています。
③環境保全効果の算定基準
●前年度環境負荷総量との比較により算出しています。なお、生産量調整は行わず、前年度との単純比較です。
④環境保全対策にともなう経済効果の算定基準
●実質的效果としてリサイクル収入などを把握していますが、環境保全コストをマイナス処理しています。

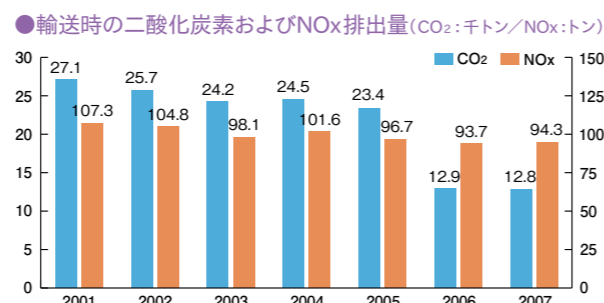
地域・社会との共生

環境データ集

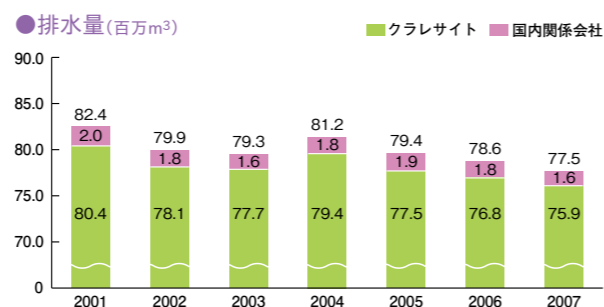
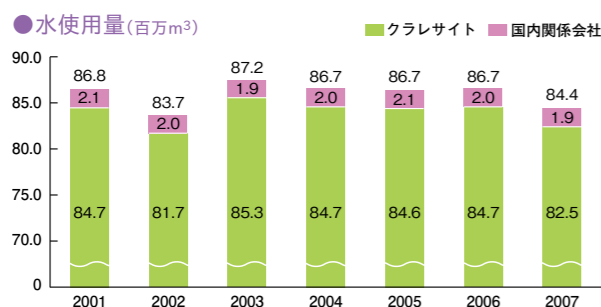
エネルギー使用量の推移



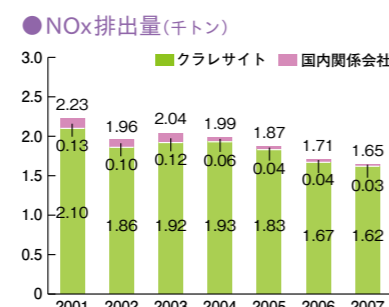
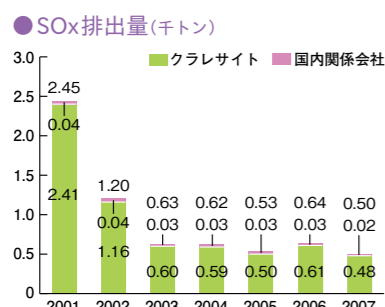
輸送時の環境負荷低減 (クラレサイト)



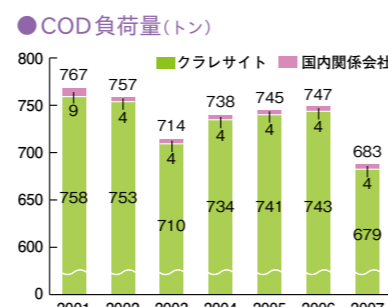
省資源



大気汚染防止



水質汚濁防止



●主なオゾン層破壊物質の排出量はホームページ (<http://www.kuraray.co.jp/csr/report/>) に記載しています。

環境マネジメントシステム (ISO 14001) 認証

- クラレ新潟事業所 ●クラレ岡山事業所 ●クラレ鹿島事業所
- クラレ倉敷事業所(くらしき研究所を含む) ●クラレつくば研究所 ●クラレ西条事業所 ●クラレケミカル(株)(鶴海工場)
- クラレプラスチック(株)(伊吹工場) ●クラレファスニング(株)(生産・開発本部) ●クラレトレーディング(株)(本社、東京事業所)
- Eval Company of America ●SEPTON Company of America ●EVAL Europe N.V. ●Kuraray Europe GmbH (PVA/PVB Division, Trosifol Division) ●OOSTROSIFOL

※事業所の敷地内に所在する下記の関係会社を含む
 クラレクラフレックス(株)、クラレ岡山スピニング(株)、クラレメディカル(株)、クラレ玉島(株)、クラレ西条(株)、クラレエンジニアリング(株)、
 クラレテクノ(株)、協精化学(株)、日本海アセチレン(株)

方針 考え方

クラレグループは、独創性の高い技術で新たな事業を創造し、すぐれた製品やサービスを通じて社会に貢献するとともに、地域社会をはじめとした社会とのコミュニケーション活動を強化していきます。

また、社員が主体的に参画できる活動、長期的に継続できる活動であることを重視し、「医療・福祉」、「教育・文化」、「環境」を中心に社会貢献活動を行っています。

地域とのコミュニケーション

工場見学・説明会

クラレの各事業所およびクラレプラスチック(株)、クラレケミカル(株)の各工場では事業所への理解を深めていただくため、地域の方々を中心に見学会や説明会を開催しています。2007年度は総勢3,018人の方にご参加いただき、クラレの考え、活動を説明させていただきました。今後も、地域住民の皆さまとの対話を継続し、事業活動に生かしていきたいと考えています。

地域住民の皆さまとの交流

地域住民の皆さまと社員の交流を目的に、野球場やグラウンドを開放してのサマーフェスティバル(クラレ全事業所、クラレプラスチック(株)、クラレケミカル(株))や、事業所敷地内でのクリスマスツリーの観覧会(倉敷事業所)を開催し多くの近隣住民の皆さまや、社員の家族に会場いただきさまざまな催しを楽しんでいただきました。また、事業所敷地内にある桜の木の開花時期にあわせて観桜会(西条事業所、新潟事業所)などを実施しており、2007年度は約10,000人の方に来場いただきました。

クラレプラスチック(株)では伊吹工場に近隣保育園の園児を招待しどんぐり拾いを楽しんでもらいました。今後も、地域住民の方々がクラレグループに親しんでいただくきっかけとなるようなイベントを全国で展開していきます。

各事業所での取り組み

事業所	取り組み
倉敷事業所	クリスマスファンタジー、子ども球技大会、サマーフェスティバル
西条事業所	観桜会、グラウンドゴルフ大会、ゲートボール大会、サマーフェスティバル
新潟事業所	観桜会、中学校ソフトテニス大会、サマーフェスティバル
岡山事業所	ママさんバレーボール大会、サマーフェスティバル、児童球技大会
鹿島事業所	サマーフェスティバル
クラレケミカル(株)	ふれあいフェスティバル
クラレプラスチック(株)	サマーパーティー

海外事業所の取り組み

エバールヨーロッパではイベントを開催して近隣の子どもたちをお招きしたり、工場見学を開催し近隣住民の皆さまに参加していただいています。クラレアメリカでは社員がボランティアで近隣の小学校を訪問して勉強を教えたり、学校行事のお手伝いをしています。また、日米協会主催のお祭りにボランティアとして参加し、屋台や金魚すくいなどの出店の手伝いをしたり、プレゼントがもらえない子どもたちの家族に、社員全員でクリスマスプレゼントを贈ったりしています。



クリスマスファンタジー(倉敷事業所)



約10,000人の方に来場いただいた観桜会(西条事業所)



クラレアメリカの学校訪問ボランティア

医療・福祉分野

医療施設、福祉施設の支援

医療分野ではクラレグループと深いかわりのある「倉敷中央病院」「愛染橋病院」「西条中央病院」への支援をしています。福祉分野では、事業所の遊休福利施設を活用して「ちゅーりっぷ苑」、「フルーツの家」や「杜の家」のような共同生活介護施設や老人介護施設を運営しています。今後ともさらに活動の場を広げていきたいと考えています。



財団法人倉敷中央病院



社会福祉法人石井記念愛染園愛染橋病院



特定医療法人同協会西条中央病院

クラレグループが運営、支援する介護施設

介護施設	事業内容
ちゅーりっぷ苑 (新潟県胎内市)	認知症対応型 共同生活介護グループホーム (定員18名) 小規模多機能型居宅介護デイホーム (契約定員25名) 居宅介護支援事業
フルーツの家 (愛媛県西条市)	グループホーム(定員41名) デイサービス(定員10名) 訪問介護・看護 居宅介護支援事業
杜の家(愛媛県西条市)	グループホーム(定員18名)

居酒屋あいぜん

大阪本社では、社員のボランティアを募集し、毎月第2水曜日に石井記念愛染園の特別養護老人ホームで、入居者の方に居酒屋の雰囲気を楽しんでいただく取り組みをしています。このイベントは2001年9月に開始して以来、入居者やその家族、施設の方々など、多くの参加者に楽しんでもらっています。また、2007年6月には、6年以上にわたる継続的な活動が評価され、「石井記念愛染園創立90周年・附属愛染橋病院設立70周年記念」の表彰で愛染園石井十次賞を受賞しました。



居酒屋あいぜん

筑波大学附属聴覚特別支援学校
生徒作品展・会社見学会

クラレでは、1999年より東京本社で筑波大学附属聴覚特別支援学校造形芸術科の生徒の方々作品展示会を開催しています。2007年も東京本社来客フロアに作品を展示し、社員をはじめ、多くのお客さまに鑑賞していただきました。

また、就職活動を支援するため、会社見学会に生徒の方々をご招待し、企業の仕組みについての講義や、実際の職場の雰囲気を理解するための見学会、社員との交流会を行いました。

これらの活動を今後も継続することで、生徒の方々の作品を社会に発表する機会を増やしていきたいと考えています。



作品展示会

教育・文化分野

少女少女化学教室

クラレでは、子どもたちに化学の実験を体験し、化学の楽しさを知ってもらう活動として、小学校の高学年を対象に「少女少女化学教室」を開催しています。この教室は、社員がボランティアで講師やアシスタントを務め、事業所内の専用教室や、地域の小学校、公共施設などで1992年より開催しています。2007年度は10回、延べ329人の子どもたちが参加しました。

また、社団法人日本化学工業協会が主催する2007「夢・化学-21」夏休み子ども化学実験ショー（つくば研究所協力）ほか、青少年のための科学の祭典 鹿行地区大会（鹿島事業所）に参加し化学教室を開催しています。これからも多くの子どもたちが化学の面白さに触れることのできる場を提供していきたいと思ひます。



青少年のための科学の祭典で実験する子どもたち(鹿島事業所)

少女少女化学教室開催実績

事業所	教室名	累計開催回数	累計参加人数
倉敷事業所	おもしろ化学館	51回	1,517人
西条事業所	わくわく化学教室	44回	1,299人
新潟事業所	ふしぎ実験室	33回	970人
鹿島事業所	おもしろ化学教室	6回	469人
岡山事業所	おもしろ化学教室	29回	1,050人
合計		163回	5,305人

小学校への本の寄贈

多くの子どもたちに読書の素晴らしさを知ってもらいたいとの想いから、倉敷事業所では夏祭りを実施したバザーの収益金で、小学校に図書を寄贈しました。子どもたちに大変喜ばれ「クラレ文庫」が設置されることとなりました。同様に、マッチングギフト*を利用して、西条事業所では近隣の小学校5校に図書を寄贈しました。

マッチングギフト

クラレは1992年から、希望する社員の毎月の給与から100円未満の端数を積み立て、それに会社が拠出する同額の寄付を合わせて、地域や福祉などに役立てていく活動に取り組んでいます。

ランドセルは海を越えて

「ランドセルは海を越えて」は、教育支援として小学生が使っていたランドセルを、文具などとともにアフガニスタンやモンゴルの子どもたちに贈ろうという国際貢献活動です。2004年から始め、4年目を迎えたこの活動ですが、2007年も約8,500個のランドセルが全国各地より集まり、ジョイセフをはじめ、関係団体やクラレ社員を含むボランティアの方々の協力により開梱・仕分け・梱包の上、現地に寄贈することができました。

倉敷事業所では、地域の小学生を招いてフォトディスカッションを開催。現地の写真を見ながら、贈ったランドセルや学用品がとても喜ばれていることを実感してもらいました。そのほか、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」では、来場された方にアフガニスタンやモンゴルの現状を伝えるとともに、「ランドセルは海を越えて」の活動を紹介しました。



海外に寄贈するランドセル

VOICE 少女少女化学教室に参加した社員

小学校5年生の時に、クラレ主催の「ふしぎ実験室」に参加しました。においをかいだり、スライムをつくったりといった実験そのものも楽しかったのですが、実験の時に社員の皆さんに優し

く指導していただいたことが、子ども心にも記憶に残っています。クラレ社員となった今、今度は私が、子どもたちに化学の面白さを伝えていきたいと考えています。



(株)クラレ
鹿島事業所
ミラブライト
開発推進部
小泉 征一

環境分野

里山保全活動・富士山植樹

クラレでは、社員のボランティア意識の向上と環境教育を目的として自然保全活動に取り組んでいます。2007年は昨年に引き続き、富士山の植樹と里山保全活動の東京グリーンシップ・アクションへ参加しました。富士山植樹活動ではグループ社員を含め54人が参加し、132本の苗木を植樹し、保護柵の作成や育苗作業を行いました。また、東京本社で実施している里山保全活動は2カ所で延べ28人が参加し、篠竹の刈り取りなどの作業を行うとともに、NPOの方から樹木と里山の関係の話の伺い、自然や植物の理解を深めることができました。



各地から富士山の植樹に集まったグループ社員

環境教育の出前授業

クラレでは、事業所近隣の小学校を訪問して環境教育の出前授業を実施しています。2007年度は、クラレプラスチック(株)の社員が、近隣を流れる相川の環境調査をしている不破中学校の授業に参加。企業の環境対応について話をしました。倉敷事業所では、乙島小学校、乙島東小学校の6年生を対象にクラレの環境保全に対する取り組みを紹介した後、リサイクルの体験学習をしてもらいました。このような活動に対して、生徒の皆さまからは感謝のお便りをいただいています。これからも多くの子どもたちに環境問題への興味をもってもらえるような場を提供していきます。



クラレプラスチック(株)の環境教育の出前授業

清掃活動

クラレ、クラレケミカル(株)、クラレプラスチック(株)では、周辺の道路・公園などの清掃活動を行っています。2007年は延べ22回の活動を実施し、1,484人の社員が参加しました。

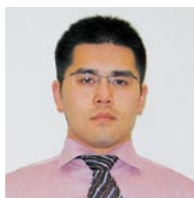


クラレケミカル(株)の清掃活動

VOICE

富士山植樹のつどいに参加

2007年7月、会社と労働組合が共同で企画した「富士山植樹のつどい」に参加しました。植樹できた木の本数はわずかでしたが、全事業所から集まった仲間が気持ちを一つに作業に取り組み、終了時の達成感に忘れることができません。また、一昨年植樹した木が少し成長している姿を見て、今後も続けて参加していきたいと思いました。



(株)クラレ
CSR本部法務部
川崎雄也

今後の課題と目標

クラレの社会貢献は従来より少年少女化学教室など「クラレらしさ」が生かせること、社員がその活動に参加することを基本としています。しかし、活動が生産事業所中

心になっており、地域との接点の少ない東京・大阪本社の活動の充実を図ることや、幅広い視点で新たな社会貢献に取り組むことが必要と考えています。

調達先との協働

方針
考え方

高品質で安全、かつ環境にやさしい製品をお客さまに提供するためには、原材料や資機材を供給していただく取引先との良好な関係が不可欠である

と考えています。CSR調達を進めるとともに、活発なコミュニケーションを通じて、取引先との共存共栄を目指します。

CSR調達

国際的な普遍的原則とされる「国連グローバル・コンパクト」の10原則にもとづき、「人権の重視」「コンプライアンスの遵守」「グリーン調達の推進」という3分野11項目をCSR調達方針として2005年度に策定しました。方針で定めている項目への取り組みを、主要調達先にお伝えし協力を依頼するとともに、実施状況をアンケート調査で確認し、十分な取り組みが行われていない企業については改善をお願いしています。

2007年度は前年度の調査結果で、取り組みが不十分であった調達先72社に対し、再度、積極的な取り組みをお願いしました。その結果、取り組みが十分である調達先は72社中44社となり、全調査対象調達先では94%（全調査対象社数：431社）へ改善されました。

CSR調達方針

- ◆人権の重視
 - ①人権・人格の重視
 - ②ILOの中核的労働基準の遵守
 - 団結権・団交権の保証 ●強制労働の禁止 ●児童労働の禁止
- ◆コンプライアンスの遵守
 - コンプライアンス方針 ●コンプライアンス遵守システム
 - コンプライアンス教育プログラム
- ◆グリーン調達の推進
 - 環境方針、環境報告書の作成
 - グリーン調達の実施計画、実行組織 ●ISO14001の認証取得
 - グリーン調達の教育、啓蒙の実施

<取り組みが十分と判断する基準>
CSR調達方針11項目のうち、8項目以上について取り組みを実施している場合。

グリーン購入

2007年度も、「グリーン購入ガイドライン」にもとづき、紙類、文具等を対象とし環境負荷の少ない商品の購入を進めてきました。しかし、製紙業界における古紙配合比率問題や再生樹脂配合比率問題により、前年度までCSRレポー

トにて報告していたグリーン購入比率の見直しが必要となりました。現在、再調査結果を踏まえた今後の対応方法を検討しています。

VOICE 調達先とのコミュニケーション

調達価格や納期などで厳しい交渉を行うかわらで、CSRの考えを理解していただくという、短期的に見ると、一見相反する状態を両立させていくことはとても大変でした。

当初はクラレのCSR精神を理解していただけませんでしたが、顔を突き合わせながら直接お願いすることによって、この3年間で調達先から次第に協力をいただけるようになりました。



(株)クラレ
購買・物流本部
機材部
後藤宏之

今後の課題と目標

クラレにおける主要調達先へのCSR調達活動は一定の成果を得ていますが、近年、CSRに対する社会的要請はますます高まっています。今後は、グループ会社にも取

組みを広げるために、まずはクラレケミカル(株)、クラレプラスチック(株)においてグリーン調達を進めていきます。

働きがいのある職場づくり

方針 考え方

クラレグループはグローバル人事ポリシーを基盤に、社員一人ひとりが仕事を通じて人間的に成長できるように、多様性の推進、人材育成、公正・公平な評価などの制度を整えるとともに、健全な組織風土の醸成に取り組んでいます。

クラレグループグローバル人事ポリシー

- ① 個人の人權を尊重します。
企業理念「個人の尊重」にもとづき、すべての働く人の人格・人權を尊重します。セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、児童労働、強制労働といった人權侵害を排除いたします。
- ② 差別を撤廃し、多様性を尊重します。
雇用、処遇、能力開発、配置、評価などあらゆる人事局面において、業務上の能力・成果に関連しない人種・国籍・性別・思想等、個人の属性による差別を行わず、さまざまな国の人材、文化、考え方を受け入れる多様性を尊重します。
- ③ 法律を遵守した人事施策を実行します。
人事施策の実行にあたっては、各国の法律を遵守します。
- ④ 公平・公正・透明な人事制度を目指します。
人事施策の実行にあたっては、公平性・公正性・透明性に最大限配慮し、すべての働く人にとって納得感あるものを目指します。
- ⑤ 職場環境の整備に努めます。
労働安全、労働衛生の観点から、心身ともに健康で安全に働くことのできる職場環境の整備に努めます。
- ⑥ クラレグループの発展に貢献できる人材の雇用に努めます。
高い能力、知識、モラルと倫理観を持ち、クラレグループの発展に大きく貢献する、意欲ある人材を雇用します。
- ⑦ 適材適所の配置を行います。
保有能力・知識、適性、能力開発の観点から、人材を適材適所に配置し、業績貢献と職務満足の大最大化を目指します。
- ⑧ 納得性の高い評価・処遇を行います。
評価者との対話を通じ、従事職務、発揮能力、成果、態度・行動を重視した、納得性ある評価・処遇を行います。
- ⑨ 能力開発を支援します。
職務を通じた能力開発を重視し、そのための適切な支援を行います。
- ⑩ 適切な情報開示、コミュニケーションの促進に努めます。
クラレグループで働くすべての人が、ミッション遂行へ向けて一体感を感じることができるよう、適切な情報提供を行うとともに、直接、間接的な対話を行います。

社員に関する基本情報

社員数

	全体	男性	女性
クラレグループ	6,770人	5,842人	928人
うち(株)クラレ	2,931人	2,655人	276人

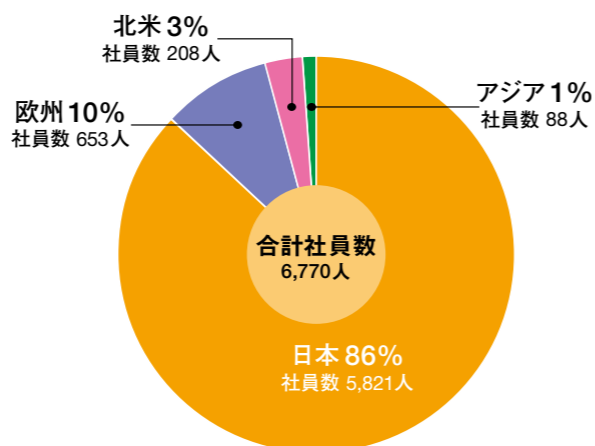
グループは連結対象会社 2007年度末現在

離職率

	退職者数	離職率
自己都合	43	1.1%
定年	57	1.5%

※離職率=事由別退職者数/期初(株)クラレ社員数(出向者含む)

地域別人員構成



多様性と機会均等

定年退職者再雇用

クラレは今後も増加が見込まれる定年退職者に活躍の場を提供し、その知識と技術を生かすために、勤務状況等が一定の要件を満たし、かつ本人が再就職を希望する社員を再雇用する制度を整備しています。2007年度の定年到達者の再雇用者数は41人でした。今後も定年退職者の再雇用に積極的に取り組んでいきます。

女性の雇用機会

女性が活躍できる職場づくりに積極的に取り組んでいます。その施策として、女性の積極的な採用と、育児休職制度などのインフラ整備を進めています。2007年度は、女性総合職は13人(25%)が入社し、女性管理職は3人となっています。

障害者雇用

→クラレの障害者雇用への取り組みについては、P.31～32をご参照ください。

柔軟な勤務制度

効率的な労働の実現とワーク・ライフ・バランスへの配慮という観点から、個人の仕事内容に応じた柔軟な勤務制度を導入しています。具体的には「裁量労働制」「事業場外みなし労働時間制」「変形労働時間制」を導入し、社内イントラネット上に制度マニュアル等を掲載して、社員への周知を図っています。

なお、2007年度、クラレでは労働時間管理に関して、労働基準監督署から勧告を受けておりません。

育児・介護へのサポート

クラレでは、社員の利便性や仕事と家庭の両立を考慮した、育児・介護サポートを実施しています。

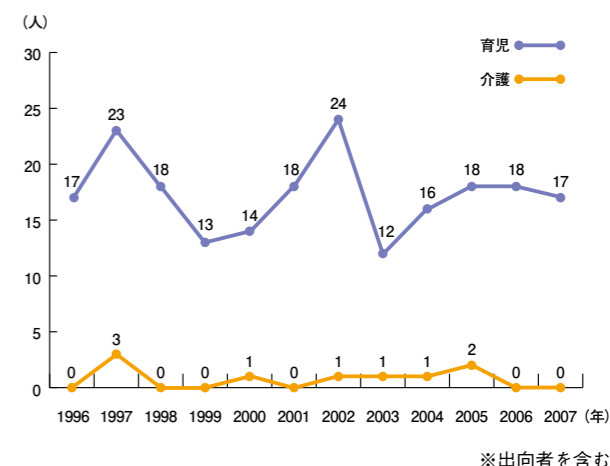
●育児休職期間は、子が1歳6ヵ月になるまで、もしくは1歳到達後の4月末までのいずれか長い方を認めています。

●介護休職期間は、対象家族1人につき、延べ365日を限度として分割取得することができます。

●育児短時間勤務制度は、子が小学校1年生修了までの間、利用することができます。

さらに、制度を有効に取得できるよう、利用しやすい雰囲気づくりや社員への制度浸透に努めています。これらの活動が認められ、2007年4月には、「次世代育成支援対策推進法」に定められた行動計画達成を厚生労働大臣より認定されました。現在、2010年3月までの第二次行動計画で、「所定外労働の削減や、子育てを行う社員の仕事と家庭の両立を支援するための環境整備」などを目標として定め、達成に向けて取り組んでいます。

【(株)クラレの育児休職・介護休職者数



次世代認定マーク



次世代認定マーク(愛称「くるみん」)
「次世代育成支援対策推進法」にもとづいて子育て支援の「行動計画」を策定し、目標の達成を厚生労働省より認定された事業者が取得することができます。

人材育成

国内クラレグループでは、業務上必要な知識・スキルを習得するための研修と社員の自律的なキャリア形成をサポートする研修とを組み合わせ、下図のような研修体系を運用しています。

各研修は正社員だけでなく、臨時パート社員、契約社員も受講が可能です。国内グループ共通の研修のほかに、各事業所、各会社でも独自に研修を企画・実施し、スキル開発・キャリア開発に取り組んでいます。

また、クラレでは、自己啓発により取得した一定の公的資格に対して奨励金を支給する資格取得支援制度を設けています。

グローバル人材育成プログラム

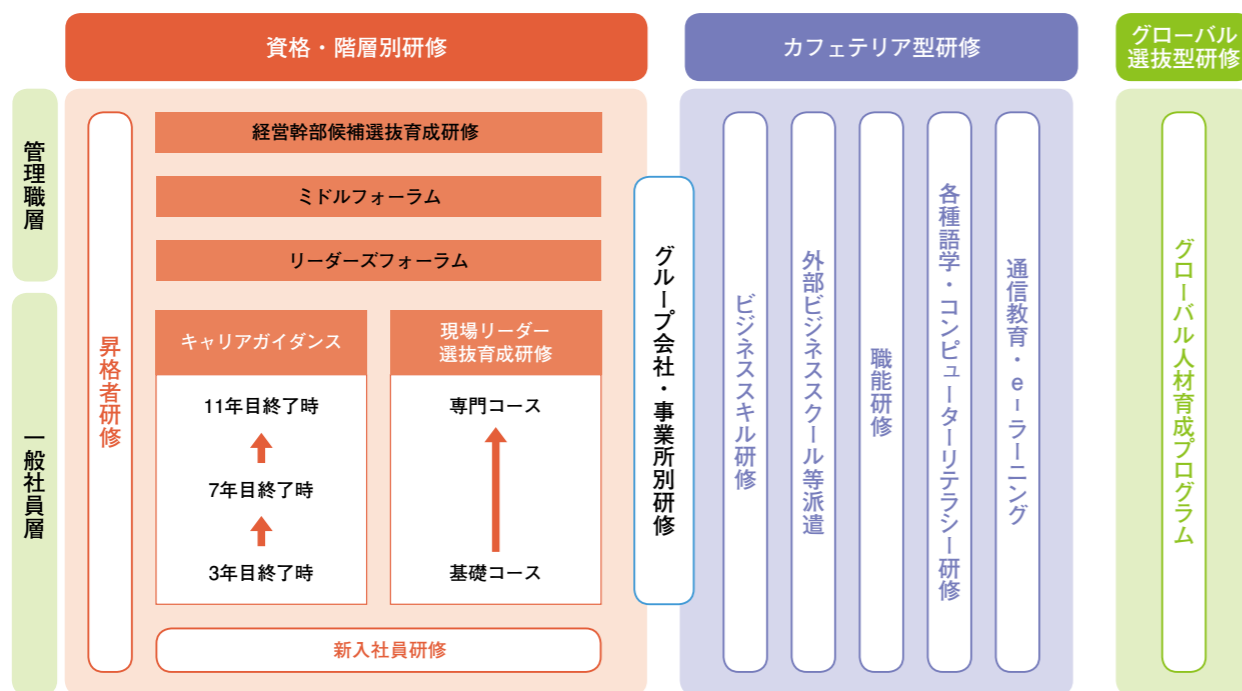
クラレグループの海外売上高比率は年々上昇しており、

2008年度には50%を超えると予測しています。そこで、今後のグローバルな持続的成長を支える基盤の強化のため、グローバル人材育成プログラムを開始しました。

このプログラムは、海外を含めたクラレグループ全体の人的資源のグローバル対応力向上、研修を通じたグループ一体経営意識の醸成、「クラレ経営のDNA」の共有を目的としています。日本だけでなく海外を含めたクラレグループ全体を対象とした選抜型のビジネス研修で、若手から部長クラスまで各層に応じたプログラムを用意し、すべての研修を英語で行っています。2007年度は、各国から選ばれた64人の社員が参加しました。

各国の社員と一緒に研修することで、会社や国籍を越えた結束が強まり、クラレグループがグローバルに協働する原動力となることを目指しています。

クラレグループ研修体系



VOICE グローバル人材育成プログラム

私はグローバル人材育成プログラムの一つ「Global Team Training」に参加しました。グローバルマネジメントについての講義、海外の同僚との英語でのディスカッション、新しいビジネスプランの提案など、とてもエキサイティングなプログラムでした。

この研修を通じて、意思決定、異文化同士でディスカッションすることの難しさなど、多くのことを学びました。今後も学んだ知識やスキルを磨いて、グローバルビジネスの舞台上で活躍できるリーダーを目指したいと思っています。



(株)クラレ
総務・人事部
人事部
石川智章

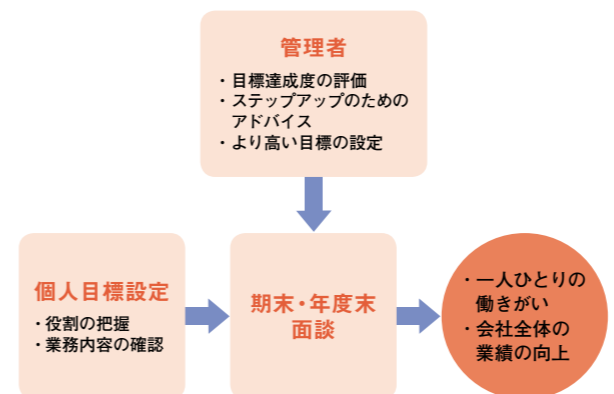
人事評価制度

公正・公平・透明な人事諸制度

クラレでは「頑張れば報われる処遇制度の設計」が、社員の働きがいと会社業績の向上に結びつくと考えています。そこで、年功や属人的要素ではなく、職務遂行能力の向上や業績、高い役割へのチャレンジを処遇に反映する人事制度を導入しています。管理職については年齢や資格にかかわらず、その人が現在担っている役割に応じて、処遇を反映させることを目的に、2008年度に職能資格制度を廃止し、仕事内容＝「役割」に応じた処遇制度に改定します。

運用に際しては年初に、個人がそれぞれの業務に対しての目標を設定し、期末・年度末に上司と目標の達成度や経過について面談を行うという目標管理制度を取り入れています。期末・年度末に行われる上司と部下の面談では、個人の目標到達について単に評価するだけでなく、「知識や技術を向上させ、さらにステップアップするにはどうすればよいのか」、「より高い業績を出すにはどうすればよいのか」を話し合います。これらの仕組みを通じて社員の成長と業績向上の両立を目指しており、そのために管理者を対象とする面談スキル向上のための研修といった施策も継続的に実施しています。

目標管理制度



特許報奨制度

クラレでは職務発明をした社員からその特許を譲り受け、それに対し補償金を支給する制度があります。特許の出願時、登録時に補償金が支給されるだけでなく、特許の重要性を評価し、生み出した利益に応じた補償金を特許存続期間中支給する制度です。注目すべき発明には、特許出願時に追加の補償金も支給しています。

クラレグループ表彰制度

クラレグループには、社業への大きな貢献または特別の功労があった社員(個人またはグループ)を、毎年の創立記念日に表彰し、その努力に報い、榮譽を称える制度があります。2007年度は37件の表彰が行われました(勤続賞除く)。毎年の表彰結果は、社内報などを通じて、積極的にグループ社員に周知を図り、社員および組織全体の活性化につなげています。

また、地域社会に対するボランティアや福祉活動、国際交流活動なども表彰の対象としており、社員の積極的な社会貢献を促進しています。



社内報

クラレグループ表彰制度の種類

- 社長賞 ● 社長特別賞 ● 有功賞 ● 事業所創新貢献賞
- 社会貢献賞 ● 功労賞 ● 勤続賞

VOICE

表彰

私たちは、<エパール>フィルムを使用した壁紙の環境負荷低減で、有功賞一級を受賞しました。

<エパール>フィルムを使った壁紙は、汚れがつきにくいことが市場から評価され、使用量が拡大していますが、製造時に有機溶剤を使用すること、またシックハウス症候群の関連から、有機溶剤を使用しない製法への変更が望まれていました。

この課題を解決する過程では、開発・生産・技術の担当者が一丸となって取り組み、問題を解決することができました。今回の受賞は、私たちの努力が大きく評価されたものであり、ここで得た経験を今後の糧にしていきたいと思っています。



クラレプラスチック(株)

- 大谷昇史(左上)・伊吹工場 技術部 技術グループ
- 吉田 哲(左下)・伊吹工場 技術部 技術グループ
- 野辺義夫(右上)・フィルム・ラミネート事業部 新規フィルム開発室 フィルム開発チーム
- 水野義隆(右下)・フィルム・ラミネート事業部 フィルム・ラミネート生産課

労働衛生

クラレグループは、心身ともに健康で安全に働くことのできる職場環境の整備に努めることを「クラレグループグローバル人事ポリシー」の一つとしています。「クラレ労働衛生基本方針」*をもとに、社員の健康の保持・増進と快適な職場づくりを進めています。

クラレ労働衛生基本方針

「企業活動規程」にもとづき、社員および関係者の安全と健康の確保が企業活動の基本と認識し、健康で安全に働くことのできる職場環境の整備と健康づくり活動に取り組めます。

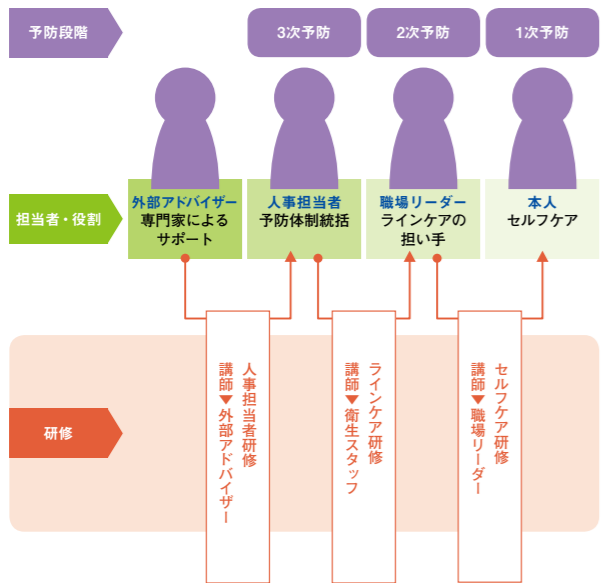
メンタルヘルス

近年社会的に増加傾向にあるストレス性疾病を予防する観点から、継続してメンタルヘルス対策に力を入れています。

●予防のための体制整備

社員本人、現場リーダー、人事担当者それぞれがメンタルヘルス予防の担当であるとの自覚を促し、セルフケア(社員自身による対処)・ラインケア(管理者・職場リーダーによる対処・対応)の両輪で、主体的かつ継続的な予防活動を推進しています。

■予防体制



●心の相談室

クラレでは、社内・社外に相談窓口を設けています。電話相談や面接カウンセリングが利用でき、気軽に相談できる体制を整えています。

●職場復帰への支援

長期休業者の段階的な職場復帰を支援するため次のリハビリ出勤制度を2007年度に設けました。

- ・病気再発を防止するために、産業医の意見を参考にし、職場復帰を段階的に無理なく行うこととしました。
- ・復帰にあたっては、半日勤務からスタートすることも可能ですが、それにより収入減となる場合への支援も整備しました。

健康づくりの支援

2007年度より本社・各事業所で、「ヘルスアップ作戦」を展開中です。これは各社員がヘルスアップのために日常生活習慣の改善を目指して、具体的な行動目標の宣言を行い、その達成にむけて取り組んでもらうものです。それにより社員全員が健康づくりの必要性を認識し、自分自身による健康づくりの足がかりとなっています。

健康診断

クラレでは、労働安全衛生法に定める定期健康診断や特殊健康診断に加え、生活習慣病対策などの法定外健診項目を追加実施しています。2007年度、健康診断受診率は98.9%となっています。

AED(自動体外式除細動器)* 設置

2007年度より、クラレのほとんどの拠点(東京、大阪、つくば、新潟、岡山、倉敷)でAEDを設置し、講習会を行いました。西条事業所では、2007年度末時点では未設置ですが、2008年度上期にAED設置と講習会を予定しています。

AED(自動体外式除細動器)

心臓が心室細動を起こした際に、電気ショックを与え正常な働きに戻す医療機器。音声ガイドに従って安全に使用できるため、AEDは誰でも簡単に使用することができます。

VOICE

ヘルスアップ作戦

私はヘルスアップ作戦を開始するにあたって、「体重のコントロール」という目標をメインテーマとして、①「毎日の体重測定」、②「1日30回以上、よく噛むこと」、③「野菜の摂取量を増やし、インスタント食品を避ける」という3つの具体的な目標を立てました。これらの目標に対して、目標達成度を毎日記入していきましたが、記入することによって、「体重のコントロール」という目標に対しての意識を高めていくことができました。



(株)クラレ 繊維資材事業部 東京繊維資材部 本田雄一

対話を大切にした職場づくり

経営トップとの対話

クラレグループの経営方針や経営陣の考え方を社員に伝えるために、社内報や全員集会、研修、事業所訪問などの機会において、経営トップと社員とが直接対話する場を多く設けています。

またイントラネットには社長ホームページ「プレジデントルーム」が開設されています。社員全員と社長とが直接意見交換や質疑応答を行い、それらに対してほかの社員が議論に加われる仕組みをつくっています。

社員意識調査

社員が日常の仕事や職場生活についてどのように感じ、何を望んでいるかを把握するために、2006年9月に無記名回答方式の社員意識調査を実施し、「企業風土」、「会社の強みと弱み」、「会社の魅力と職場の魅力」、「セクシャルハラスメント」等の項目について調査しました。

この調査結果を受けて2007年度は、経営層と社員のコミュニケーションの促進を目的に、社長をはじめ役員と幅広い階層の社員や、若手社員との懇談会を開催しました。

これからも、よりいっそう充実した社内コミュニケーションの場づくり、活発な意見交換が行われる企業風土づくりを進めます。



経営陣と語り合う社員

今後の課題と目標

今後、事業環境のグローバル化や少子高齢化などの社会環境の変化により、人的資源の確保・活用がますます重要になってきます。

労働組合との対話

クラレグループには社員で構成されるクラレ労働組合、クラレグループ労働組合連合会といった労働組合組織があります。会社は労使協議会などの場を通して、組合定期大会や職場委員会などで社員から提起される意見について労働組合と真摯に話し合い、協力して問題解決に取り組んでいます。

セクハラ相談窓口の設置

セクシャルハラスメントに関する相談窓口を、各事業所に設置しています。誰でも相談しやすいよう、窓口には男女複数の担当者を配置しています。2006年度の社員意識調査結果では、「職場でセクハラを受けたことがある」と感じた社員が少数いました。そこで2007年度は、全社員に再度注意喚起するとともに、窓口担当者に労働組合担当者を加えるなどの工夫で、関連会社・派遣社員を含めたすべての立場の社員が相談しやすいように制度を強化しました。2008年度には、社外講師を招いてセクハラ相談窓口担当者を対象とした研修の実施を予定しています。

社会貢献活動サポート

クラレでは、年次有給休暇のほかに「特別休暇」や「社会貢献休暇」制度を設け、社員の多様な社会貢献活動をサポートしています。2007年度は、32人の社員が制度を利用し、地震災害ボランティアや自然保護活動ボランティアなどの活動に参加しました。



新潟県中越沖地震でのボランティア活動

地域と連携した障害者雇用の場づくり

障害者雇用を進め、自立を支援することは、企業が果たすべき責任の一つです。クラレでは、社員と会社、双方にとって有効な方法を模索し、単なる社会貢献にとどまらない活動を進めています。ここでは、10周年を迎えた「クラレ作業所」を紹介します。



地域との共生と障害者の自立支援

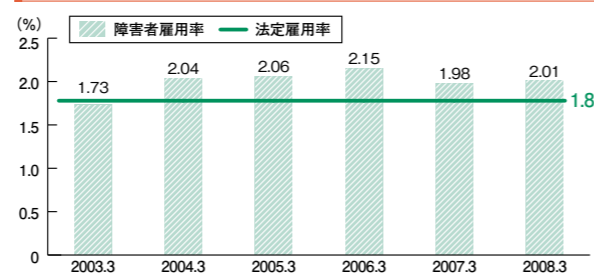
クラレは、障害者の自立支援を企業の社会的責任の一つととらえ、積極的な取り組みを進めてきました。障害者雇用率の向上は、法的な要請だけでなく、多様な人材の活躍の場の提供という観点からも重要だと考えています。

しかし、特に知的障害者については、社会の受け入れ体制がまだまだ整っていないのが現状です。クラレにおいても、機械や化学薬品など爆発・火災事故につながる危険物を多数扱っていることもあり、知的障害者の雇用には多くの困難がともなうとされていました。

そんな中、さまざまな課題を乗り越え、知的障害者向けの作業所を10年にわたって運営してきたのが、新潟県胎内市にある新潟事業所です。「地域とともに生きていくという意

識は、私たちの事業所にとって不可欠なもの。この作業所の取り組みもその一つだと考えています」。新潟事業所総務部（2008年5月当時）の松原敏は語ります。

障害者雇用率の推移(クラレ)



地域の福祉法人との「二人三脚」

クラレ作業所は、中条町(現 胎内市)から町有地を提供してもらい、1997年4月に新潟事業所と地域の社会福祉法人七穂会「虹の家」との協力で誕生。障害者雇用拡大を目指すクラレと、知的障害者就労の場の拡大を求めている町と虹の家のニーズが合致したことがきっかけでした。現在もクラレが仕事を確保し、虹の家が障害者指導のノウハウなどを提供するという「二人三脚」での運営が続いています。

当初は5人だった作業員は、現在は20人にまで拡大。4人の指導員がその活動を支えています。「10年間、退職者は1人も出ていません。指導を通じて、それまでできなかったことができるようになっていくのを見るのは本当に嬉しいですね」。指導員の近恵子はそう話します。

同じく指導員の杉本勇二は「作業員の家族とも連絡ノートを通じての信頼関係構築を心がけています」と語ります。「仕事をするという意識を持ってもらうため、時には家庭生活にまで入り込んで指導したことも。いまでは、作業所のみんなのことを自分の子どものように思っています」。

また、安全性に配慮しながら、作業所で担える仕事を見つけるのも杉本ら指導員の重要な役割です。「事業所で扱う製品の変更により、それまでやっていた仕事なくなることもありましたが、最近は他部署のほうから『こんな仕事はどう?』と声をかけてもらったり、認知度が高まっているのを感じる(近)といいます。現在は、リサイクルのための分別作業、事業所で使う備品の製作などが仕事の中心。事業所



事業所社員との交流
ふれあいサッカー大会

の業務効率化やリサイクルの推進につながっただけでなく、「備品の仕上がりも外注するのと変わらないし、コスト削減にもなる」と社内の評判も上々です。また、作業員も他部署からの仕事を通じてクラレの一員という意識も高まっています。

「いろいろ新しい仕事があるから、それを覚えてできるようになるのが楽しい」。そう話すのは、作業員の梅津和明。ミシンでの縫製を得意とする若桑のりも、「仕事を通じて、何でもやればできるんだと自信がついた。健康な限りずっと頑張りたい」と笑顔を見せます。

作業員との交流イベントに参加した社員は、「こういう機会がなかったら、知的障害者という存在自体が、自分の生活の中で見えてこなかった」と語ります。また、数年前には胎内市内の企業が、クラレと同様な形で新たに作業所を開設しました。作業所の存在が社員一人ひとりに、そして地域社会に意識の変化をもたらしています。



作業員の可能性を最大限に生かせるよう、綿密に打ち合わせる指導員

社会福祉法人七穂会「虹の家」 桐生清次園長



仕事をする中で、障害者一人ひとりが生きがいを見出していくことができる。その意味で、クラレが就労の場を提供してくれたことの意義は大きいです。福祉施設だけではなく企業がかかわってくれたことで、「障害者も地域の一員」という意識も広がったし、地域も大きく変わった。共生社会の実現のために、今後、全国に同様の場が増えることを期待しています。

次へのステップへ向けて

クラレ作業所の取り組みはいま、西条・鹿島など、クラレのほかの事業所に広がりつつあります。新たな拠点を加え、今後も法定雇用率にとらわれずに障害者雇用を拡大していくことが、次へのステップです。

社会に属する多様な人材が能力に応じて活躍できる場を増やしたい。障害者の自立を支援する地道な取り組みを拡げていきたい。クラレは、そう考えています。

クラレグループの製品

クラレグループは、独自の技術で「世のため人のため」になる製品・サービスを生み出し、その価値を提供することで社会に貢献したいと考えています。変化し続ける社会からのニーズに応え、信頼される企業を目指しています。

〈ゼクルス〉◆

→排水処理設備



排水を処理する際に発生する余剰汚泥を、薬剤を用いることなく自然の力で大幅に削減する他社にない排水処理システム。
※P.35～36参照
用途▶工場の排水処理設備

ビニロン★

→スレート屋根瓦



ポバール樹脂を原料とする合成繊維。高強度、低伸度、親水性、耐候性、耐アルカリ性などの特徴があり、アスベストに代わるセメント補強材としても注目されています。
主な用途▶セメント、コンクリート補強材、アルカリ電池セパレーター、ロープ、その他産業資材

〈クラフレックス〉

→ふきん



吸水性、拭きとり性および乾燥性にすぐれた乾式不織布。各種製法で種々の用途に展開しています。
主な用途▶生活関連用品(ウェットティッシュ、コーヒー包材、伸縮包帯)、工業用品(ワイパー、自動車用途)、業務用品(カウンタークロス)

〈エパール〉★

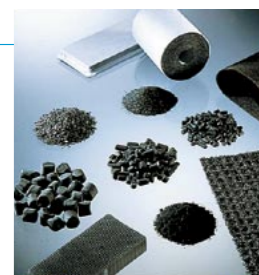
→マヨネーズの容器



クラレが世界で初めて工業化した、気体をほとんど通さない機能性樹脂。酸素を遮断して内容物の変質・劣化を防ぐため、食品包装材などに使われています。
主な用途▶マヨネーズ、ケチャップなどの食品包装材、自動車のガソリタンク

〈クラレコール〉

→浄水器



ヤン殻や石炭などを原料とする活性炭。水や空気の浄化、化学物質の吸着・除去や、脱臭、脱硫・脱硝、蒸散ガソリン吸着用、キャパシタ(蓄電装置)などさまざまな分野で活躍しています。
主な用途▶浄水・排水処理、空気浄化、脱臭、溶剤回収、清浄用フィルター、脱硫・脱硝、蒸散ガソリン捕集

歯科用接着材・充填材

→虫歯の治療材料



天然歯と近似した色調を持つ樹脂系の充填材料や、歯質との接着性を有した接着材料。切削量を最小限にした審美的な治療を可能にし、質の高い歯科医療サービス提供への一助となっています。
用途▶歯科材料

〈ジェネスタ〉◆

→携帯電話



クラレが自社開発した、新しいポリアミド樹脂で、耐熱性、耐薬品性、耐摩擦性にすぐれています。電子部品に使われるハンダの鉛フリー(無鉛)化に対応する樹脂として市場から高い評価を得ています。
主な用途▶携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、液晶テレビ、自動車部品

〈クラリーノ〉★

→ランドセル



天然皮革の代替として、クラレが世界で初めて工業化した人工皮革。丈夫で軽く、手入れが簡単などの特徴があります。
主な用途▶紳士・婦人靴、かばん、スポーツ・トレーニングシューズ、大型ボール

〈マジックテープ〉

→靴



衣料や靴をはじめ、メディカル製品から各種工業資材まで、さまざまな分野で留め具や結束具として使われており、省資源化と廃棄物削減に役立っています。
主な用途▶衣料、スポーツ用品、工業資材、梱包資材、メディカル用品

メタクリル樹脂

→電照看板



プラスチックの中でもすぐれた透明性、耐候性を持っています。成型材料は着色性、加工性にもすぐれ、光学部品用途などでも活躍しています。
主な用途▶液晶ディスプレイの導光体、自動車のランプカバー、看板、建材

ブチラール

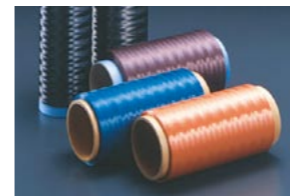
→窓ガラス



ポバール樹脂を原料とする機能性樹脂。接着性と透明性にすぐれていることから、貫通や飛散を防止するための合わせガラスの中間膜などに使われています。
主な用途▶合わせガラス用中間膜、セラミックス・塗料・インク用のバインダー、太陽電池充填材

〈ベクトラン〉◆

→イヤホンコード



高強度で低吸水性、すぐれた耐摩耗性を持つポリアリレート繊維。イヤホンコード等電器部材のほかに産業資材として広く使用されており、またNASAの火星探査車の着陸用エアバッグにも採用されました。
主な用途▶電器部材用コード、ロープ、ネット、魚網、防護用品(手袋、靴など)

〈セプトン〉

→ペンのグリップ



ゴムのような弾性を持つ一方、プラスチックのように成形することができ、ゴム製品代替のほか、プラスチック改質剤などにも使われます。耐熱性、耐候性、耐薬品性にすぐれ、高い電気絶縁性を備えています。
主な用途▶自動車部品、電機部品、筆記具、玩具、スポーツ用品

ポバール★

→事務用液状のり



クラレが世界に先駆けて事業化した機能性樹脂。強い接着力や耐油・耐薬品性、界面活性を生かして、幅広い産業で使用されています。
主な用途▶事務用液状のり、洗濯のり、木工用ボンド、紙・繊維加工材、接着剤

ポバールフィルム★

→液晶ディスプレイ



液晶ディスプレイの表示に欠かせない偏光板の中心となる材料で、偏光度と透過率の高さが特徴です。衣料包装用途でも使われています。
主な用途▶液晶テレビ、液晶モニター、携帯電話のディスプレイ、衣料包装材

社会に役立つ クラレグループのものづくり

「独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与」することを企業ミッションに掲げるクラレグループ。創業当時から脈々と受け継がれてきたクラレグループのものづくりに対する姿勢と、そこにかかわる人の思いを紹介します。



クラレグループのものづくりの考え方

クラレグループでは、1926年の創業当初から、「独創的な技術革新による製品開発を通じて、社会の課題解決に貢献する」ことを、ものづくりの基本方針としてきました。

ただ「売れるものをつくればよい」のではなく、それが社会にとって有益なものであるかどうかを、つねに考える。たとえ売れる製品であっても、自然環境、生活環境に悪影響をもたらすものであれば参入しない。逆に、社会に対して貢献できると確信した製品については、多少のリスクを負ってでも開発を進める。そうした姿勢が、クラレグループのものづくりを支えてきたのです。

「時代によってさまざまに変化する社会のニーズに対し、『クラレグループだからできることは何か』を考える。そこか

ら、現在のクラレグループを支えるさまざまな製品は生まれてきました」。自身も研究開発畑の出身であり、開発と技術の最高責任者である蛭川洋一はそう語ります。



(株)クラレ
開発・技術統括管理(CTO)
取締役/専務執行役員 蛭川洋一

〈ゼクルス〉で環境保全に貢献

そのクラレグループのものづくりの一つの成果といえるのが、2006年に発売された排水処理システム〈ゼクルス〉です。

日本の排水処理システムの中心は、微生物に有機物を分解させる「活性汚泥法」です。しかしこの方法では、過剰に増殖した微生物が「余剰汚泥」となって蓄積するため、その焼却・埋め立て処理にともなう環境負荷が高くなります。また、余剰汚泥を発生させない従来のシステムは、化学薬品やエネルギーを大量に使うという問題がありました。

この余剰汚泥を、なんとか自然の力を利用して減少させられないか。そう考えた開発担当者の馬場泰弘らは、クラレ開発のPVAゲル〈クラゲール〉を使用し、自然の力で微生物の増殖と死滅のスピードを一定にして余剰汚泥の発生を防ぐというシステム〈ゼクルス〉を発売。通常業務のかたわら、開発実験を繰り返して商品化にこぎ着けたのです。「人員も少ない中、一丸となって取り組んだ現場スタッフの苦労があったからこそできた」と馬場は開発までの道のりを振り返ります。

この〈ゼクルス〉の誕生は、営業スタッフにとっても待ち望んだものでした。「余剰汚泥の削減は、すべてのお客さまに共通する課題だったのです」と話すのは、技術営業の高見優子です。「化学薬品やエネルギーを使わないので、ランニングコストとともに環境負荷も低減できる、とご説明すると、興味を持ってくださるお客さまがとて多かったです。コスト面



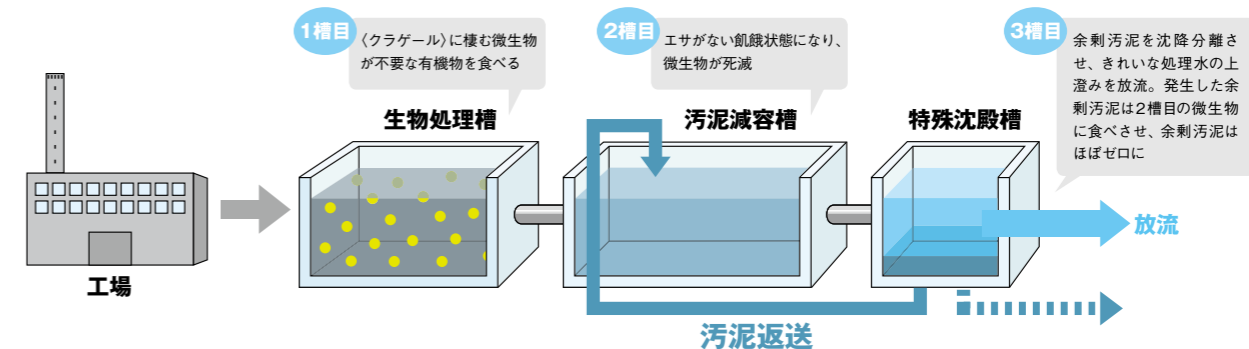
クラレアクア(株)
マーケティング本部
プラントマーケティング部
高見優子(写真右)
エンジニアリング本部
計画設計部
馬場泰弘(写真左)

だけにとどまらず、環境や社会に対しても価値のある総合的な提案をすることで、お客さまからの期待に応えていきたいと考えています」。

〈ゼクルス〉は現在、すでに静岡県内の繊維関連企業など、国内3社の工場への導入が完了。汚泥量の減少とともに、処理水質の安定・向上も見られるとの評価をいただいています。台湾や韓国など、アジア諸国でも導入・発売へ向けての準備が始まりました。

「今後は〈ゼクルス〉を通じて、温暖化の影響などによる水不足に悩む国々へのサポートもできれば」と馬場。高見も「自分たちの技術が、お客さまの力になるとともに環境保全にも貢献している。その意識が、仕事へのモチベーションにもつながっています」と語ります。社会の課題解決に貢献するものづくり、それは、かかわる社員一人ひとりの心にも大きな影響を与えているのです。

〈ゼクルス〉の仕組み



製品を通じたさらなる「社会の課題解決」に向けて

もちろん、この〈ゼクルス〉の開発は、クラレグループにとってのゴールではありません。蛭川も「消費エネルギーの削減や、資源の有効活用など、地球温暖化や資源枯渇問題の本質的な解決につながるものづくりに、ますます注力していく必要がある」と強調します。「最大の課題は、そうした

取り組みと事業の成長とを、どう両立させていくかということ。そのためにクラレグループでは、製品と技術の開発を通じてイノベーションを起こし、事業のあり方を量の拡大から質の革新へと移行していく、そこにこそ私たちのものづくりの未来像があると考えています」。

社外からの評価

アンケート結果

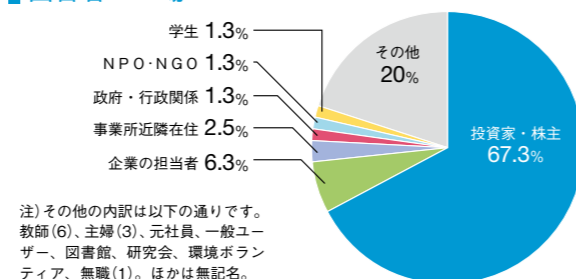
「クラレCSRレポート2007」をご覧いただいた80人の皆さまから、アンケートの回答をいただきました。その中で、最も多くの方に「よい」と回答していただいたクラレの活動は「コーポレートガバナンス」で、続いて「社会貢献活動」「温暖化防止」という結果となりました。コーポレートガバナンスでは、2008年6月から社外取締役2人が就任しており、今後も透明性の高い経営を目指していきます。温暖化防止は、対策を進めるとともに2008年度に中期目標と、活動計画を策定する予定です。

また、最も多くの方が「不十分」と思う活動は「保安防災」で、以下「社会貢献活動」ほかが続きます。化学メーカー系の企業グループとして安全・保安防災は重要なテーマです。今後も「事故ゼロ」を目指して活動を推進していきます。

回答の内訳

「よい」と思う活動		「不十分」と思う活動	
1	コーポレートガバナンス 34	1	保安防災 6
2	社会貢献活動 29	2	社会貢献活動 4
2	温暖化防止 29	3	コーポレートガバナンス 3
4	品質保証・製品安全 27	3	社外コミュニケーション 3
4	廃棄物削減 27	3	社員とのかかわり 3

回答者の立場



Global 100

2008 Global 100(2008年世界で最もサステナブルな会社100社)は、世界経済フォーラム年次総会(通称：ダボス会議)にあわせて、コーポレート・ナイツ社とイノベスト社が発表したサステナビリティ(持続可能性)に関してすぐれた世界の企業100社(うち日本企業13社)です。

(株)クラレは、2008年もその1社として選ばれました。



FTSE4Good

FTSE4Goodは、FTSE社(英 Financial Times社とロンドン証券取引所の合併企業)が設定した社会的責任投資のためのベンチマーク指標です。この指標は北欧や英国をはじめ、社会的責任投資が盛んな欧州を中心に広く用いられ、日本でも注目されている指標の一つです。

(株)クラレは、FTSE4 Goodの中で、Global Indexと日本企業を対象としたJapan Indexの指定銘柄に採用されています(2008年3月現在)。



MS-SRI

MS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)は、モーニングスター(株)が国内上場企業の中から社会的側面ですぐれていると評価する150社を選び、その株価を指数化したもので、(株)クラレもその1社に選ばれています(2008年3月現在)。



読者の皆さまへ

「クラレCSRレポート2008」をご覧いただき、ありがとうございました。

クラレグループの社会的責任に対する考えの底流には「会社は社会に貢献するために存する」という創業以来の理念があり、社会に認められる価値を持つ製品・サービスを提供して社会に役立つことが企業活動の基本となっています。

クラレグループは、前年に引き続いて安全を最重要の課題とし、全社的なリスクアセスメントや安全教育の強化など、安全管理システムの再構築を通じて事故防止に努めました。その結果、2007年度の保安事故は4件、労働災害休業度数率は0.4と、まだ十分とは言えませんが着実な改善をみました。事故はさまざまなステークホルダーに甚大な影響を与えます。これからも「安全はすべての礎」を理念として安全を最優先にした企業活動を進めていきます。

多量のエネルギーと多様な化学薬品を取り扱う化学メーカーとして環境も重要なテーマです。特に、温室効果ガス(GHG)の排出量削減が世界的に注目を集めています。クラレは、2000年度に10年後の削減目標を定め、発電用ボイラーの燃料転換や再生可能燃料の利用などの対策に力を入れてきました。その結果、この3年間(2005～2007年度)にGHG排出量を16万トン削減しましたが、一方で事業の拡大・構成変化による増加もあり、2007年度の排出量

は1990年度比3.8%の削減にとどまっています。2008年度に策定する次期中期経営計画において、来るべき「低炭素社会」に向けた新たな中長期目標を設定し、温暖化防止に役立つ技術・製品開発とGHG排出量削減の両面から環境戦略を見直します。

2007年度は、雇用に関して非正規社員の問題などが社会的にクローズアップされました。人材・雇用形態などがますます多様化する中で、社員が誇りと自信を持って働く職場をつくることは重要な課題です。社員一人ひとりが、自己実現を通じて達成感を得られる職場を目指して、今後とも、人事制度の整備や職場環境の改善などに取り組みます。

クラレグループは、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、社会から必要とされる価値を提供し、自然環境の向上に寄与し、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

(株)クラレ
CSR委員会議長
取締役常務執行役員
坂井俊英

